

株式会社期における三井物産の銀行取引

—明治 42 年～大正 11 年の元帳による考察—

麻島 昭一

目 次

1. はしがき	2
2. 「金融表」における預借金科目の内容	2
3. 元帳における預借金科目の内容	6
4. 元帳における預金取引	11
1) 当座預金	11
2) その他預金	14
3) 受取利息からの検証	19
5. 元帳における借入金等	21
1) 借入金	21
2) 支払手形	24
3) 手形割引	26
4) 支払利息からの検証	28
6. むすび	32
編集後記	42

1. はしがき

本稿は三井物産の銀行取引に関する第3論文である⁽¹⁾。すなわち、創業期三井物産の銀行取引の分析に続いて、合名会社期のそれを終え、本稿は株式会社期の分析を行うものである。ここで云う銀行取引は、物産が銀行と係わるすべての取引ではなく、預金・借入等に限定してのことである。もともと物産が営業を展開する上で、必要な資金がいかに調達されていたかの問題意識が念頭にあるので、その解明につながる預金・借入を取り上げるわけである。

しかしながら物産の銀行取引の実態を解明した研究は皆無といってよく、その背景には実態を示す資料が見当たらないという事情がある。筆者は物産資料を探索の結果、残された解明の手掛かりは物産元帳にしかないとの結論に達し、元帳から銀行取引に関する諸勘定を摘出・考察することにした。明治9(1876)年創立以来の長期間を一挙に分析することは困難なため、上記のように3つの期間に分けている。本稿が対象とするのは明治42(1909)年から大正11(1922)年までとした。すなわち始期は三井物産が合名会社組織から株式会社組織へ移行した42年11月1日の時点、終期は物産元帳が途切れる大正11年10月末の時点である(決算期でいえば明治43年上期から大正11年下期まで)。元帳に依存しての分析は、元帳の存続期間に規定されたわけである。この時期は第一次大戦で物産営業が大膨張し、戦後に大収縮する、いわば波乱に富む推移を含んでいる。そこでの銀行取引の推移も興味深いものがあろう。しかしこの時期の物産元帳には数年分欠落があり、時系列の分析を制約している⁽²⁾。欠落部分が波乱に富んだ肝腎の時期だけに極めて残念なことであるが、それを承知の上で可能な限りの分析をせざるを得まい。

- (1) 第1論文とは拙稿「創業期三井物産の銀行取引―三井物産元帳による考察」専修大学『社会科学年報』42号、2008年3月、第2論文とは拙稿「合名会社期の三井物産の銀行取引―明治26～42年の三井物産元帳による分析」専修大学『商学研究所報』39巻5号、2008年1月を指す。
- (2) 元帳の欠落部分は明治45年上期、大正2年下期、4年下期、5年上期、6年上期～10年上期の13期に及び、残存分12期と拮抗する。しかも残存分であっても、元帳の一部が欠如しているために、計数が得られぬ箇所もある。反面、残高では前期繰越高の形で把握できるところもあり、それを表の中で採用している。

2. 「金融表」における預借金科目の内容

三井物産の株式会社期の貸借対照表は極めて簡略なもので、預借金に関する科目の手掛かり

は一切ない。すなわち、株式会社に改組され、財務内容を株主に開示する義務が生じたはずであるが、三井内部の閉鎖的出資関係の下、形式的な貸借対照表を作成するだけで、外部に財務内容を秘匿しているかのようである。合名会社期の貸借対照表よりも、株式会社期のそれは極端に簡略化されて、むしろ外部からの観察を拒否している。したがって創業期、合名会社期で提示した貸借対照表上の預借金科目を見ての表面的な考察さえも、株式会社期では不可能なわけである。しかし三井物産の「事業報告」に掲載されている「金融表」が、貸借対照表では表示されていない預借金状況を掲げているので、それによってどこまで接近できるか努めてみよう。

「金融表」は、明治 43 年上期～大正 4 年下期と 5 年上期～7 年上期とでは記載内容の精粗を異にするので、二つの時期に分割する。同表は 7 年下期以降省略されているので、ここでの考察も上記の時期に限定されざるを得ない。まず、明治 43 年上期から大正 4 年下期までの第 1 表をみよう。

第 1 に、銀行当座預借(の 5 当座貸借)、諸借入金、手形割引高の 3 科目の残高が表示され、本支店貸借尻も加えられている。前 3 科目はいうまでもなく物産と銀行の取引を示し、外部資金の受け入れに関するもの、後者は物産本店と支店との貸借を示し、内部資金の流れを表すものといえよう。いずれも残高であることを確認しておきたい。

第 2 に、三井銀行とそれ以外の銀行とに区分され、大正 3 年下期から正金も別表示となるが、その他銀行がいかなる銀行か明らかでない。三井だけが終始別記されているのは、同系としての深い依存関係を表していようが、決算期毎にみれば、当座、諸借入において三井よりもその他銀行の方がはるかに多額である。つまり「その他銀行」が重要な存在であり、その内訳を知りたいものである。手形割引高においても 44 年までは三井が多いが、大正期にはその他銀行が多くなっている。第一次大戦開始から諸科目とも増加、営業拡大→資金需要増大を反映しているのであろう。

第 3 に、「銀行当座預借」の科目からは当座が預金残高なのか借越残高なのか明らかでなく、まして期中に借越が発生したか否かも不明である。

第 4 に、上段は物産全体を示し、下段は本店分であるから、差引は支店分ということになる。つまり支店分は本店分より諸科目において概して多額であり、特に諸借入や手形割引において支店での資金調達を活発であることを示唆していよう。本支店貸借では本店が支店に多額な資金を供与していたことがわかる。

それでは第 2 表の大正 5～7 年をみよう。第 1 表と比較すると、銀行名が三井、正金だけでなく、台湾、香上、朝鮮、住友が別表示となり、当座借越が 6 年下期から設けられるなど、より詳細となっている。

第1表 金融表（残高）（明43上～大4下）

（単位：万円）

科目	銀行名	43上	43下	44上	44下	45上	45下	大2上	2下	3上	3下	4上	4下
銀行当座預借	三井	102	22	83	111	116	86	70	46	85	99	197	121
	正金	219	77	115	152	87	160	93	206	226	237	43	84
	その他	321	99	198	263	203	246	163	252	311	593	476	472
諸借入金	三井	290	109	259	34	230	73	73	37	78	783	739	227
	正金	1,091	1,280	956	652	1,139	955	584	844	1,224	114	117	111
	その他	1,381	1,389	1,215	686	1,369	1,028	657	881	1,302	488	949	1,323
手形割引高	三井	696	485	802	71	241	158	152	158	308	53	286	171
	正金				455	281		287	585	562	50	646	4
	その他	696	485	802	526	522	158	439	743	870	1,271	932	894
本支店貸借	小計	477	536	116	122	175	244	37	40	215	365	424	334

（本店）

銀行当座預借	三井	65	4	32	75	52	59	49	11	48	46	132	72
	正金	15	21	12	19	61	74	22	31	30	94	10	17
	その他	80	25	44	94	113	133	71	42	78	368	290	259
諸借入金	三井	180	20	60		100	50	20			600	700	
	その他	175	65	20	105	145	20	20			600	700	
	小計	355	85	80	105	245	70	20					
手形割引高	三井			4		40	16					41	9
	その他			4		40	3		5		65	102	128
	小計			4		40	19		5		65	143	137
本支店貸借	小計	1,412	1,652	1,436	1,929	2,166	2,041	2,059	2,216	2,337	2,554	2,319	2,024

〔備考〕三井物産の「事業報告」の「金融表」より作成。下段の（本店）は上段の全体の内数で参考表示。第2表も同様。

第2表 金融表(残高)(大5上~7上)

(単位:千円)

種 目	銀行名	大5上	5下	6上	6下	7上
当座預金	三井	660	1,437	1,229	1,348	2,327
	正金	1,500	615	2,695	2,866	4,660
	台湾	1,460	1,108	1,419	2,732	946
	香上	540	738	1,567	1,492	608
	朝鮮				829	482
	その他	3,540	2,306	5,186	14,201	11,895
	小計	7,700	6,204	12,096	23,468	20,918
諸借入	三井	6,290	4,889	6,851	8,300	21,361
	正金	1,140	5,075	2,770	4,715	10,319
	台湾	3,530	4,111	7,113	8,332	6,738
	香上	20	198	662	260	1,426
	朝鮮				3,050	6,814
	住友				1,058	5,250
その他	10,590	16,244	21,684	31,898	44,048	
	小計	21,570	30,517	39,080	57,613	95,956
割引手形	三井	1,520	377	1,399	1,632	2,160
	正金	30	33	34		
	台湾	1,160	1,896	2,478	317	926
	朝鮮				390	69
	住友					648
	その他	6,910	7,023	10,395	8,058	11,037
	小計	9,620	9,329	14,306	10,397	14,840
当座借越	三井				2,298	5,069
	正金				2,078	3,008
	台湾				827	1,335
	香上				738	950
	朝鮮				1,019	2,100
	住友				218	300
その他				191	1,375	
	小計				7,369	14,137
本支店貸借		5,660	6,672	8,313	△ 37,354	△ 46,207
(本店)						
当座預金	三井	310	950	934	541	1,510
	正金	860	72	698	301	1,934
	台湾	1,310	789	955	1,464	521
	香上	60	641	837	147	342
	朝鮮				31	235
	その他	1,030	781	1,656	2,833	1,359
	小計	3,570	3,233	5,080	5,317	5,901
諸借入	三井		1,000	1,000	7,800	10,800
	その他	300	100	100	1,000	2,000
	小計	300	1,100	1,100	8,800	12,800
割引手形	三井			1,223	841	1,075
	台湾	150	946	1,024	239	
	朝鮮				390	
	その他	790	561	1,321	1,833	2,920
	小計	940	1,507	3,568	3,303	3,995
本支店貸借		19,520	30,067	37,836	△ 9,778	△ 12,419

第1に、当座預金、諸借入、割引手形いずれも残高が急増している。第一次大戦下の営業急膨張を反映しているものとみられる。特に諸借入残高は大正5年上期の2,157万円から9,596万円へと膨張している。割引手形も1,484万円、当座借越も1,414万円で、資金調達の繁忙振りを示している。

第2に、三井銀行が諸借入、当座借越、割引手形のいずれでも最多であるが、諸借入で正金、台湾、朝鮮、住友の諸行も多額であって、5年下期で正金が、6年上、下期で台湾が三井を超える多額である。また、「その他銀行」も諸借入、割引手形で小計の約半分を占め、前掲6行以外にも多額に依存していたこと、換言すれば借入先が拡大したことが分かる。当座預金の「その他銀行」が増加していることも、当座開設銀行が増えていることを推測させる。割引手形で三井、台湾が若干の比重を占めるものの、むしろ「その他銀行」の方が多額であり、手形割引での分散を推測させよう。

第3に、本店だけを見ると、諸科目とも増加しているものの、物産全体の急膨張振りと比較して金額的には大したものではなく、換言すれば急膨張は支店側であったことを示唆している。また、本店の依存した銀行数も、全体でのそれよりも少ない。

3. 元帳における預借金科目の内容

1) 預金

さて、元帳ではいかなる預借金科目があるのか。第3表は預金科目を整理したものである。銀行名を冠した科目が設定されているので、自ずと銀行別預金残高が把握できるのは、これまでとは異なる株式会社期の特徴であろう。

当座預金では、三井、第一、正金、香上の4行が合名会社期から引き続けているが、台湾、住友、第百の3行が明治末までに加わり、さらに大正期に興銀、十五、川崎、日仏、朝鮮、古河、漢城の順に7行が加わった。計14行の多さとなっている。しかし期末残高でみて多額なのは三井を筆頭に正金、第一、香上で、時に台湾、住友、第百、朝鮮の諸行が10万円を超えることがあるものの、4行と比べると残高は少ない。

残高で見る限り、当座借越は発生していないようであるが、期中での発生はなお検証を要する。前掲金融表による検討では、大正6年下期、7年上期に当座借越残高があったが、その期間の元帳が欠如しているため、検証に至らない。のちに借越利息の発生の有無を検証することで解決しよう。

次に、定期預金、通知預金の発生が目される。すなわち、定期預金は三井、第一、正金3行にだけあり、大正10年、11年のことである。三井の1,400万円という多額、そして2,500

第3表 元帳における預金科目(残高)(1)

(単位:円)

決算期	当座	三井銀行	第一銀行	正金銀行	三井銀行	台湾銀行	住友銀行	新百銀行	日本興業銀行	十五銀行	川崎銀行	日仏銀行	朝鮮銀行	古河銀行	漢城銀行
43年上期	645,073	51,309	80,384	22,881											
下期	37,309	17,611	128,815	29,087			5,316								
44年上期	313,242	14,096	631,294	67,464	8,823		6,282								
下期	752,882	27,532	58,967	83,783	11,091		9,380								
45年上期	528,561	58,714	320,771	181,872	26,580		16,932								
下期	591,219	52,808	280,522	50,678	161,014		20,003	172,896							
2年上期	496,013	48,704	35,305	113,952	10,383		8,151	5,223							
下期	103,848	35,147	230,369	1,019,459	5,472		11,981	2,140	4,024						
3年上期	477,807	46,387	35,813	210,496	629		2,971	910	6,494						
下期	462,373	177,972	443,525	123,185	374,298		183,288	156	11,425	2,200					
4年上期															
下期	720,765	214,192	134,242	598,558	145,921		29,967	21,164	36,280	15,411		6,494	2,154	16,943	
5年上期	1,023,082	35,921	157,943	64,884	1,003,988		12,825	30,405	28,230	8,138		6,381	2,117		
下期	2,879,585	748,107	365,717	89,154	260,204		66,298	36,724	74,036	68,933		26,177	116	170,618	64,589
11年上期	944,766	151,740	183,180	106,835	61,494		87,657	78,410	60,482	62,804		16,340	117	124,387	72,447
下期	969,025	112,250	175,656	249,430	157,592		95,146	74,010	57,170	60,251		18,611	118	84,548	57,850

決算期	通知										別口				
	三井銀行	正金銀行	第一銀行	三井銀行	正金銀行	第一銀行	台湾銀行	正金銀行	興業銀行	十五銀行	台湾銀行	正金銀行	第一銀行	興業銀行	十五銀行
3年下期			1) 200,000				300,000			2) 300,000			500,000		800,000
4年上期															
5年上期							1,200,000			800,000					
下期							700,000			400,000			200,000		
10年上期															
下期	14,000,000				1,000,000		1,750,000		600,000					500,000	
11年上期	20,000,000	3,000,000		1,700,000			1,500,000								
下期	25,000,000	3,000,000	2,000,000	2,000,000	500,000	1,000,000	19,025	500,000	1,015,612	500,000					

(備考)三井物産の元帳より作成。1)は第一銀行別口に含まれていた通知預金、2)は十五銀行別口に含まれていた通知預金。

万円への残高増加は特に目立ち、第一 300 万円、正金 200 万円も従来にない多額である。他方、通知預金は三井をはじめ 8 行でみられ大正 3 年で第一、台湾、十五の 3 行、5 年で台湾、第百、興銀の 3 行、10、11 年で三井、第一、正金、香上、十五の 5 行というように時期を異にしている。余裕金を預ける際に、銀行群を区別しているごとくである。そして大正 3 年下期では 3 行併せて 80 万円、5 年上期で 3 行 200 万円、下期で 130 万円程度であったが、10 年下期では 4 行で 385 万円、11 年上期では 4 行で 472 万円、同下期では 402 万円と倍増している。通知では定期ほどの多額ではないが、余裕金を数行に分散して預けていたわけである。いずれにせよ、第一次大戦中の物産営業の大膨張期に余裕金が発生し、はじめて通知預金に運用、さらに大戦後の反動恐慌を超え、物産営業が大幅に縮小した時期に、多額の資金余剰を生じ、定期、通知に多額を預けたわけである。

また、第一、正金、台湾、第百、十五の 5 行には別口預金が大正初期にある。その中に一部通知預金が含まれているが、残りはいかなる性質の預金か内容の記載がないため明らかでない⁽¹⁾。正金の 50 万円は 3 年下期から 5 年上期まで続いた模様であるが、他の 4 行は一時的なのかも知れない。当座預金とは区別しての「別口」であるとすれば、一時的な余裕金であるのかも知れない⁽²⁾。

以上の外に、第 4 表にみるごとく「特別預金」「共済会預金」「同別口」「海員救済会預金」「同別口」が元帳に設置されている。特別預金⁽³⁾は株式会社期になって設定されたが、共済会預金、海員救済会預金は合名会社期から受け継がれている。使用人の預金であって、会社自体の資金ではない。その預け先銀行は明らかでないが、おそらく三井銀行ではあるまいか。同表にみるように、それぞれの預金は漸増傾向にあり、安定した資金蓄積となっており、特に特別預金は 大正 10 年ごろでは 600 万円近い多額である。

- (1) 台湾の別口預金には 30 万円 3 口、20 万円 1 口、計 110 万円の入金と 30 万円の出金、残高 80 万円の記載があるが、30 万円 1 口には「通知預金」の記載がある。したがって第 3 表ではこの分だけは別口預金からはずして通知預金扱とした。第一、十五両行でも同様な事態がある。
- (2) 元帳で通知預金の科目が登場するのは大正 5 年上期からであって、その前に存在した「別口預金」は、まだ「通知預金」の科目を作る前だったので「別口」としただけで、実質上通知預金なのかも知れない。
- (3) 明治 43 年 2 月 7 日付で特別預金規則が制定されている(達第 6 号)。その内容は次のごときのものであった(物産資料「明 42/1~44/12 達」、重要な規定のみ抜粋)。

「第 1 条 当会社社員ハ本則ニ依リ特別預金ヲ為スコトヲ得

第 2 条 特別預金ノ金額ハ之ヲ制限セス

但シ身分不相応ノ預金ト認ムルトキハ適宜之ヲ制限スルコトアルヘシ

第3条 特別預金ノ利率八年8分ノ割トシ毎年4月並10月末ノ両度ニ計算ノ上元金ニ組
入ルヘシ 但本文計算期ニ際シ予シメ本人ヨリ申出アルトキハ利息ヲ払渡スヘシ

第5条 不得已事情アリト認ムルトキハ何時ニテモ特別預金ノ全部又ハ一部ヲ引出スコト
ヲ得

但預入ノ日ヨリ満1ケ年ニ達セスシテ引出ス部分ニ就テハ利息ヲ年5分ノ割合ニ改算
ス

第8条 特別預金ハ本人当社ニ対シ債務ヲ生シタル場合ニハ当社ノ随意ニ其弁済ニ充当ス
ルコトヲ得

第9条 本人死亡又ハ退社ノ場合ニハ直チニ元利金ヲ払渡スヘシ

第10条 社船高等海員ニハ本則ヲ準用ス

株式会社への改組に当たり社内預金制度を創設したわけで、利率は一応優遇しているものの、自由には使わず、万一に備えての担保でもあった。多額に預ける幹部の名もあり、預金者層は広がったようである。制度発足後、預金残高は増加する一方で、安定した資金といえよう。

第4表 元帳における預金科目(残高)(2)

(単位:円)

決算期	特別預金	共済会預金	同別口	海員救済会預金	同別口	計
42年下期	0	28,391		6,618		35,009
43年上期	200,918	30,341		7,296		238,555
下期	464,338	31,979		7,374		503,691
44年上期	614,121	33,859		8,536		656,516
下期	678,064	36,202		8,856		723,122
45年上期	701,019	38,407		11,335		750,761
下期	764,540	46,064		12,324		822,928
2年上期	813,818	52,335		13,054		879,207
下期	806,416	61,932	10,382	14,687		893,417
3年上期	850,656	68,814	30,336	16,370		966,176
下期	970,248	76,150	40,001	18,247		1,104,646
4年上期	921,356	83,582	44,482	20,074		1,069,494
5年上期	1,352,629	100,277	74,660	23,862		1,551,428
下期	1,975,436	109,569	98,909	56,615		2,240,529
9年下期	5,414,636	202,266	?	76,925	42,339	?
10年上期	5,866,744	211,065	631,829	82,936	42,312	6,834,886
下期	5,409,774	225,817	588,771	89,120	41,993	6,355,475
11年上期	4,640,657	241,133	918,938	91,772	41,993	5,934,493
下期	3,817,373	254,291	1,143,631	96,688	42,142	5,354,125

2) 借入金

元帳に設定されている借入関係の科目はどうか。第5表にみるごとく、借入金と明示されているのは興銀、台湾銀行、大正海上の3行社だけである。しかも明治43年だけの興銀(残高は上期40万円、下期20万円)、45年から大正5年までの台湾(残高は10~20万円)、大正10年以降の大正海上(残高は30万円で固定)のごとく、それぞれ異なる時期に別々に発生しており、残高はそれほど多額ではない。果たして借入金はこれだけなのか。大正3年に会計細則が制定された時、当座預金、借入金は銀行別に口座を設けることになっているから、少なくとも同年以降は借入金が銀行別に分かるはずであるが、上記の分しか登場していない⁽¹⁾。

実は、支払手形等の科目に実質上の借入金が含まれているのである。すなわち、株式会社期に支払手形、支払約束手形、支払為替手形の科目に分かれ、支払約束手形が銀行宛の支払手形振出の形式での借入を内容としている。そして大正3年11月の会計細則改正⁽²⁾において、支払約束手形は廃止され、支払為替手形を支払手形と改めたのである。この改正後は、支払手形の科目だけとなり、その中に実質上の借入が含まれているかを検証する必要がある。要するに、支払約束手形と支払為替手形が事実上借入金であるので、その残高をみると前者では441万円から20万円まで漸減するものの、かなりの借入が続いていたこと、後者では大正3年下期600万円、4年上期700万円だけが判明し、かなり多額の借入があったことを知ることができる。当然その借入先が知りたいところである。

第5表 元帳における借入金等の科目

(単位:円)

決算期	借 入 金			手形割引	支払手形	支払約束手形	支払為替手形
	日本興業銀行	台湾銀行	大正海上				
43年上期	400,000				46,517	4,410,000	
下期	200,000				36,845	3,710,000	
44年上期				36,651	53,249	1,860,000	
下期				4,403	43,071	1,550,000	
45年上期				400,000	54,326	2,450,000	
下期		101,951		183,908	52,523	700,000	
2年上期		148,000		0	59,542	200,000	
下期		148,000		50,000	36,568		
3年上期		148,000					
下期		200,000		650,000			6,000,000
4年上期				100,000			7,000,000
5年上期		190,000			1,664,902		
下期					6,742,989		
10年上期					547,235		
下期			300,000		1,706,817		
11年上期			300,000		531,106		
下期			300,000		841,981		

また、手形割引の科目が明治 44 年以降大正 4 年まで設定されているが、残高で見る限り増減が激しく(最多は 3 年下期の 65 万円)、その銘柄、割引銀行名が検証されねばならない。

- (1) 三井物産資料「達(第 37 号)」大正 3 年 6 月 16 日にある「会計細則」をみると、勘定科目の規定の中で

「7、銀行勘定

当座預金(銀行毎ニ口座ヲ設クヘシ)

借入金(同断)

有価証券借入(同断)」

とある。確かに当座預金は銀行毎に口座が設定されているが、借入金、有価証券借入ではどうも実行されていないように思える。

- (2) 三井物産資料「達(第 60 号)」大正 3 年 11 月 21 日「会計細則中別紙ノ通り改正ス」において、「会計細則第 2 章第 5 項貸借勘定中」9 項目が列記され、その中に含まれている。改正の趣旨は説明されて居らず、改正の事実を知るのみである。

4. 元帳における預金取引

1) 当座預金

前述のように株式会社期の当座預金の設定行数は合名会社期と比較して著しく増加しているが、各行別に、決算期別に、入出金別に当座取引の件数と金額を整理したのが第 6 表である。そこから判明する特徴は次の通り。

第 1 に、当座取引では三井銀行が他行とは隔絶した規模を持ち、物産が同行を全面的に利用していることを窺わせる。すなわち、入出金の規模が半期 3,000~4,000 万円という多額であり、11 年頃は 1 億円を超えるほどに入出金が活発である。件数が半期百数十件となっているのは、入出金を一日分まとめて元帳に記載しているからで、実際に個別で記載すればその幾倍かになる。まとめていることを反映して、1 件当たりの入出金を計算すると 20~30 万円の多額さであり、11 年には 80 万円前後になっている。残高も数十万円規模で推移し、11 年には 100 万円に近い。とにかく他行と比較して格段に規模が大きい。

第 2 に、三井に続いて正金、第一の順に入出金が多額である。すなわち、正金で 1,000 万円前後、第一で数百万円だが、11 年には 1,000 万円を超えるほどに規模が拡大している。1 件当たりを計算すれば正金で 10 万円前後、第一で数万円であり、残高は正金で変動が大きいものの、数十万円規模であり、第一は数万円程度であった。第一次大戦中に第一の当座利用が拡大しているようである。そしてそれに続くのは香上、台湾、住友、第百の諸行であって、入出金

第6表 当座預金取引（株式会社期）

決算期	三井銀行							第一銀行						
	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
43年上期	151	30,589,752	202,581	150	30,831,945	205,546	646,073	49	3,447,663	70,360	86	3,413,382	39,690	51,309
下期	171	30,790,334	180,060	156	31,399,098	201,276	37,309	51	2,173,010	42,608	82	2,206,708	26,911	17,611
44年上期	165	31,172,718	188,926	143	30,891,786	216,026	318,242	48	2,822,246	58,797	73	2,825,761	38,709	14,096
下期	170	35,353,613	207,962	152	34,918,973	229,730	752,882	48	1,919,914	39,998	63	1,906,478	30,262	27,532
45年上期	162	30,516,262	188,372	148	30,740,583	207,707	528,561	36	2,355,701	65,436	69	2,324,519	33,689	58,714
下期	185	32,233,055	174,233	147	32,170,397	218,846	591,219	56	3,354,750	59,906	115	3,360,656	29,223	52,808
2年上期	185	30,287,324	163,715	147	30,382,530	206,684	496,013	75	4,741,166	63,216	146	4,745,270	32,502	48,704
下期	187	38,243,315	204,510	150	38,629,480	257,530	109,848	102	5,987,268	58,699	148	6,000,825	40,546	35,147
3年上期	193	45,230,208	234,353	150	44,862,249	299,082	477,807	69	3,936,967	57,057	134	3,925,727	29,296	46,387
下期	175	40,231,032	229,892	120	40,246,466	335,387	462,373	104	9,068,014	87,192	148	8,936,429	60,381	177,972
5年上期							1,023,062							35,921
下期	204	65,054,983	318,897	159	65,357,280	411,052	720,765	132	7,870,460	59,625	153	7,692,249	50,276	214,132
10年下期							2,879,585							748,107
11年上期	147	107,404,834	730,645	147	109,339,653	743,807	944,766	117	12,025,774	102,784	139	12,619,141	90,785	151,740
下期	155	125,592,629	810,275	155	125,568,370	810,119	969,025	121	15,692,134	129,687	137	15,731,624	114,829	112,250

決算期	台湾銀行							住友銀行						
	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
下期							0	20	1,822,337	91,117	29	1,817,021	62,656	5,316
44年上期	21	690,357	32,874	16	681,534	42,596	8823	17	1,456,740	85,691	30	1,455,774	48,526	6,282
下期	42	2,221,497	52,893	36	2,219,229	61,645	11,091	15	1,160,162	77,344	24	1,157,064	48,211	9,380
45年上期	31	3,342,039	107,808	35	3,526,550	100,759	26,580	17	1,423,611	83,742	24	1,416,059	59,002	16,932
下期	58	4,233,062	72,984	50	4,098,628	81,973	161,014	23	1,674,414	72,801	24	1,671,343	69,639	20,003
2年上期	84	2,983,289	35,515	43	3,133,920	72,882	10,383	28	2,277,900	81,354	34	2,289,752	67,346	8,151
下期	73	3,793,637	51,968	55	3,798,548	69,065	5,472	24	1,387,062	57,794	22	1,383,232	62,874	11,981
3年上期	26	1,981,517	76,212	33	1,986,360	60,193	629	24	1,825,757	76,073	29	1,834,767	63,268	2,971
下期	41	5,970,460	145,621	61	5,596,791	91,751	374,298	26	3,298,821	126,878	21	3,115,503	148,357	183,288
5年上期							1,003,998							12,825
下期	152	13,994,780	92,071	110	13,952,857	126,844	145,921	42	1,118,974	26,642	19	1,101,832	57,991	29,967
10年下期							260,204							66,298
11年上期	117	14,366,404	122,790	93	14,565,115	156,614	61,494	96	4,441,157	46,262	67	4,419,798	65,967	87,657
下期	113	10,006,265	88,551	94	9,910,167	105,427	157,592	75	3,908,179	52,109	56	3,900,690	69,655	95,146

決算期	十五銀行							朝鮮銀行						
	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
3年下期	6	388,423	64,737	5	386,223	77,245	2,200							
5年上期							8,138							0
下期	4	301,738	75,435		4		15,411	4	556,575	139,144	8	540,232	67,529	16,343
10年下期							68,933							170,618
11年上期	66	4,124,639	62,495	46	4,130,769	89,799	62,804	44	4,487,835	101,996	50	4,534,066	90,681	124,387
下期	70	2,837,403	40,534	43	2,839,956	66,045	60,251	47	6,330,399	134,689	52	6,370,238	122,505	84,548

決算期	古河銀行							日仏銀行						
	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
5年上期														2,117
下期								1	37	37				2,154
10年下期							64,569							116
11年上期	16	984,535	61,533	28	976,657	34,881	72,447	1	1					117
下期	7	385,926	55,132	14	400,523	28,609	57,850	1	1					118

規模が100～500万円程度、特に台湾が大正3年以降半期1000万円以上へと拡大していることが目立つ。1件当たりを計算すると数万円の期が多いが、台湾、第百では10万円を超える期もいくつかある。

さらに十五、朝鮮、興銀の当座開設が続くが、特に十五、朝鮮における11年での入出金規模の拡大が目立つ。古河、漢城の入出金規模は数十万円程度、川崎、日仏は僅かな金額で問題とならない。古河以下、入出金がありません当座の存在はいかなる意味があったのか疑問が持たれるが、目下のところ解明の手掛かりがない。

横浜正金銀行							香港上海銀行						
件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
55	4,795,860	87,197	45	4,728,250	105,072	80,384	28	1,436,575	51,306	23	1,427,614	62,070	22,881
98	9,430,825	96,233	71	9,382,394	132,146	128,815	25	784,138	31,366	13	777,932	59,841	29,087
85	10,505,169	123,590	78	10,002,609	128,239	631,294	21	1,735,342	82,635	21	1,696,965	80,808	67,464
108	12,641,974	117,055	95	12,614,301	132,782	58,967	27	1,477,268	54,714	17	1,460,949	85,938	83,783
98	9,409,061	96,011	87	9,147,257	105,141	320,771	16	751,027	46,939	15	652,938	43,529	181,872
137	12,246,492	89,390	89	12,286,741	138,053	280,522	25	1,956,308	78,252	20	2,087,503	104,375	50,678
135	9,424,159	69,809	111	9,669,376	87,111	35,305	51	2,626,517	51,500	37	2,563,243	69,277	113,952
134	9,747,582	72,743	119	9,552,518	80,273	230,369	59	3,364,167	57,020	47	2,458,660	52,312	1,019,459
128	8,528,331	66,628	107	8,722,887	81,522	35,813	67	3,248,631	48,487	57	4,057,594	71,186	210,496
127	8,441,314	66,467	87	8,033,602	92,340	443,525	56	2,914,829	52,051	60	3,002,140	50,036	123,185
						157,943							64,884
141	15,074,387	106,911	97	15,098,088	155,650	134,242	75	4,757,119	63,428	44	4,223,445	95,987	598,558
						365,717							89,154
79	9,170,520	116,083	77	9,353,056	121,468	183,180	66	3,124,028	47,334	46	3,106,346	67,529	106,835
99	21,590,485	218,086	92	21,598,009	234,761	175,656	23	2,922,258	127,055	37	2,779,663	75,126	249,430

第百銀行							日本興業銀行						
件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高	件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
						0							
19	2,846,440	149,813	32	2,673,544	83,548	172,896							
19	2,549,513	134,185	34	2,717,186	79,917	5,223							
20	3,545,269	177,263	37	3,548,352	95,901	2,140							4,024
19	1,886,696	99,300	23	1,887,926	82,084	910	15	1,844,262	122,951	22	1,838,792	83,581	6,494
21	3,593,358	171,112	36	3,594,112	99,836	156	15	2,678,661	178,577	25	2,673,730	106,949	11,425
						30,405							28,230
29	1,335,090	46,038	20	1,344,331	67,217	21,164	14	1,115,189	79,656	21	1,107,139	52,721	36,280
						36,724							74,036
26	4,948,332	190,320	47	4,906,646	104,397	78,410	5	277,411	55,482	14	290,966	20,783	60,482
15	2,451,108	163,407	40	2,455,508	61,388	74,010	8	472,211	59,026	18	475,523	26,418	57,170

川崎銀行						
件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
						6,381
1	73	73				6,454
						26,177
14	20,741	1,482	3	30,578	10,193	16,340
19	41,029	2,159	4	38,758	9,690	18,611

漢城銀行						
件数	入金	1件当たり	件数	出金	1件当たり	残高
						7,550
25	343,833	13,753	60	344,798	5,747	6,585
24	336,165	14,007	43	328,999	7,651	13,751

このように当座開設は第一次大戦中に進められるが、利用の程度は銀行によって相当に格差がある。すなわち、入出金規模で見ると、第一次大戦中に拡大の傾向にはあるが、銀行によって一律ではない。大正5年に三井、正金、台湾、香上は規模を拡大するが、第一、住友、第百、興銀、十五は減少であり、11年には三井、第一、住友、第百、十五、朝鮮は激増であるが、正金、香上、興銀は必ずしも同様でない。物産の選択的利用の姿勢が看取される。

第3に、当座借越が全くみられないことである。創業期には活発な利用があり、合名会社期にも前半ではまだ利用があったが、株式会社期では残高で見ると、発生していない。のちに

支払利息の検討で、三井にごく僅か借越利息があったことを知るが、当座借越はもはや利用しない方針であったといえよう。

2) その他預金

株式会社期に通知、定期預金が多額に発生したことはすでに第3表で指摘した。それではいかなる銀行に預けられたのか、それがここでの検討である。第7表は銀行別に通知・定期預金の入出金・残高を整理したものである。

第7表 通知・定期預金の出入金（銀行別）

(単位:円)

通知預金	決算期	件数	入金	件数	出金	残高
三井銀行	11年上期	37	31,722,427	31	30,022,427	1,700,000
	下期	53	41,416,900	27	41,116,900	2,000,000
第一銀行	3年下期	7	1,200,000	2	1,000,000	200,000
	5年下期	1	1,091	1	1,091	0
	10年下期					1,000,000
	11年上期	8	3,567,832	4	4,567,832	0
	下期	8	4,300,000	7	3,800,000	500,000
正金銀行	10年下期					1,750,000
	11年上期	4	1,626,632	4	1,876,632	1,500,000
	下期	11	5,500,000	5	6,000,000	1,000,000
台湾銀行	5年上期					1,200,000
	下期	1	15,882	2	515,882	700,000
	11年上期	10	2,438,460	5	2,438,460	0
	下期	1	19,025			19,025
香港上海銀行	5年下期	4	1,002,904	4	1,002,904	0
	10年下期					600,000
	11年上期	3	915,612	1	500,000	1,015,612
	下期	3	500,000	2	1,015,612	500,000
第百銀行	5年上期					800,000
	下期	4	810,373	5	1,210,373	400,000
十五銀行	3年下期	1	500,000	1	200,000	300,000
	10年下期					500,000
	11年上期	5	1,500,000	3	1,500,000	500,000
	下期	2	516,460	3	1,016,460	0
日本興業銀行	5年下期	4	550,000	2	350,000	200,000

定期預金	決算期	件数	入金	件数	出金	残高
三井銀行	10年下期					14,000,000
	11年上期	29	20,000,000	20	14,000,000	20,000,000
	下期	8	19,000,000	10	14,000,000	25,000,000
第一銀行	11年上期	3	3,000,000			3,000,000
	下期	1	3,000,000	1	3,000,000	3,000,000
正金銀行	11年下期	1	2,000,000			2,000,000

(1) 通知預金

元帳からは大正3年下期、5年下期と11年上、下期しか入出金が判明しないが、台湾、第百では前期繰越の形で5年上期の残高が判明、第一、正金、香上、十五では前期繰越の形で10年下期の残高が判明する。元帳の探索では大正3年上期までは通知預金がないことは明白であるが、確認できない4年上下期、5年上期、6年上～10年下期に通知がある可能性は否定できない。特に6～10年が不明なことは残念である。このことを念頭に置きながら、判明している限り事例から考察する。

第1に、大正3年上期では、第一、台湾、十五3行の別口預金の中に通知預金が含まれている。すなわち、この時期では元帳に通知預金の科目が設定されておらず、別口預金科目の摘要欄に別口預金と通知預金とが区別されていることによって、通知の存在が知り得たわけである。3行の通知は数十万円で預けられたが、一部がすぐに引き出されたり、長くても2カ月の短期間であった。

第2に、5年下期では台湾、香上、第百、興銀、第一の5行に預けられ、11年には三井、第一、正金、香上、十五の5行に預けられている。当座で大きな利用がある三井、正金、第一において5年下期に通知がないのは意外の感がある。預け先の選択にいかなる方針があったのか、目下のところ手掛かりはない。

第3に、期中に入出金がありながら、期末残高零という事例がいくつかみられる。すなわち、第一の5年上期と11年上期、台湾の11年上期、香上の5年下期、十五の11年下期である。このことは残高の有無だけで判断できず、期中での入出金の有無もみなければならないことを意味する。余裕資金が短期間だけ通知預金に運用されるからである。

第4に、5年下期の入出金では香上と第百の100万円前後が目立つだけで、台湾、興銀、第一は少額である。しかし11年では三井が上期3,000万円、下期4,000万円を超え、他行とは隔絶した規模であり、第一、正金が数百万円、台湾、香上、第百、十五が100～250万円程度である。残高で100万円を超えるのは5年上期の台湾(120万円)、10年下期の第一(100万円)、11年上期の三井(170万円)、正金(150万円)、香上(102万円)、11年下期の三井(200万円)、正金(100万円)であって、入出金で突出している三井も残高では他行と大きな差はない。三井だけが期中に入金、出金を頻繁に行っていたこと、他行は期中に入出金がある程度あり、期を越す残高も若干あるという状況であった。

通知預金は余裕金の一時的運用という性格を持つと考えられるが、それならば預け期間の実態が重要な問題であろう。以下元帳の記載ぶりに手掛かりを求めよう。

第8表によって通知預金の滞留状況をみよう。大正5年下期を例にとると、台湾銀行では期初の5月1日に120万円の通知預金があり、期末(=10月末)までに入出金があつて期末に70

第8表 通知預金の滞留状況

(金額単位:円)

銀行名	預入期間		積 数	期中平均		預入期間平均	
	始期	終期		日数	金額	日数	金額
大3/下							
第一	大3.6.17	3.10.31	45,883,748	183	250,731	136	337,381
十五	大3.9.16	3.10.31	16,500,000	183	90,164	45	366,667
大5/下							
台湾	大5.5.1	5.10.31	151,200,000	183	826,230		左と同じ
第百	大5.5.1	5.10.31	63,400,000	183	499,454		〃
香上	大5.5.1	5.9.15	33,050,000	183	180,601	114	289,912
興銀	大5.8.18	5.10.31	11,950,000	183	65,301	74	161,486
大11/上							
三井	大10.11.8	11.4.30	769,519,583	180	4,275,109	173	4,448,090
第一	大10.11.1	11.2.25	278,474,824	180	1,547,082	116	2,400,645
正金	大10.11.1	11.4.30	238,861,413	180	1,327,008		左と同じ
台湾	大10.11.8	11.4.26	222,306,132	180	1,235,034	172	1,292,478
香上	大10.11.1	11.4.30	157,732,932	180	876,294	179	881,190
大11/下							
三井	大11.5.1	11.10.31	954,185,522	183	5,214,129		左と同じ
正金	大11.5.1	11.10.31	437,975,588	183	2,393,309		〃
第一	大11.5.8	11.10.31	235,500,000	183	1,286,885	176	1,338,068
香上	大11.5.1	11.10.31	131,611,034	183	719,186		左と同じ

万円が残高があったが、その間の滞留額から積数を計算すると1億5120万円となる。滞留期間183日であるから、平均滞留額を計算すると83万円となる。つまり同行には通知預金として83万円が期中を通じて預けられていたことを意味する⁽¹⁾。しかし興銀では期初には通知がなく、期の途中(8月18日)から20万円が預けられ、その後の入出金の結果、期末には20万円の残高となったから、その滞留期間は74日で、積数は1,195万円と計算される。滞留期間74日の平均滞留額は16万円であるが、その決算期間全体で平均滞留額を計算すると6.5万円に過ぎない⁽²⁾。積数はどの銀行に通知をどれだけ預けたかを端的に表すが、期中平均額に換算するとイメージが掴みやすいと思われる。しかし期中の一部期間しか預け入れがなかった場合は、その期間だけの預入規模を示すために預入期間平均を参考までに併記してある。

以上のような計算方法を念頭に置きつつ、第8表から指摘できることは次のようである。

第1に、大正3年下期では通知預金が2行、期中平均が34万円程度、大正5年下期では通知預金は4行であるが、台湾銀行が期中平均83万円で最多であるものの、4行合計でも157万円程度である。しかし次の大正11年と比較すると僅かであって、まだ物産として余剰資金が多額にあったわけではないといえよう。前述のように三井、第一、正金など明治期から関係の深い3行が登場しないことは意外である。

第2に、大正11年上期では三井以下5行に多額の通知が預けられ、まさに様変わりである。三井は期中平均428万円と抜群に多額であり、第一、正金、台湾でも百数十万円の多額である。期中平均は5行の合計で926万円におよび、かつ期間中ほとんど滞留しっぱなしの状態である。借入の必要はなく、逆に余剰資金を持って余していたように思われる。

第3に、11年下期でも上期と同様な状況が続いていた。すなわち、期中平均で三井は524万円とさらに多額となり、正金240万円、第一129万円と続き、4行合計で961万円に達している。11年では明治期からの三井、第一、正金、香上が揃って名を連ね、余剰資金の受け皿となっている。そこに台湾が加わっていることも見逃せない点である。

以上の説明でも分かるように、大正11年における三井銀行への通知預金は巨額であるが、その動きを付表3、4に掲げておく。そこからは出入りが頻繁であること、1回毎の出入り金額自体が多額であることが窺える。定期預金ならば1件毎に金額、期間が定まっており、独立性がある。通知預金では一定の期間の払出予告を前提にしているはずであるが、付表をみてものの預け入れが何時出金されているのか検証し得ない。むしろ当座預金のように融通無碍に出し入れが行われているかのようにみえる。だからこそ積数計算によって通知預金の規模を推定することが必要と考えた次第である。

- (1) 決算期間中絶えず通知預金が置かれている例として第百銀行の大正5年下期を挙げてみよう。入出金の度に滞留日数、積数を算出し、期中平均を計算する過程が分かってほしい。

第百銀行の通知預金(大5/下) (金額単位:円)

入出金日			入金額	出金額	日数	残高	積数
5	5	1	800,000		35	800,000	28,000,000
5	6	5	500,000		8	1,300,000	10,400,000
5	6	13		300,000	1	1,000,000	1,000,000
5	6	14		300,000	2	700,000	1,400,000
5	6	16		300,000	4	400,000	1,600,000
5	6	20		300,000	9	100,000	900,000
5	6	29	10,373	10,373	5	100,000	500,000
5	7	4	300,000		119	400,000	47,600,000
計			810,373	1,210,373			91,400,000
					183		499,454

- (2) 期中のある期間だけ通知預金が置かれている例として興業銀行の大正 5 年下期を挙げてみよう。

入出金日	入金額	出金額	日数	残高	積数
5 5 1				0	
5 8 18	200,000		27	200,000	5,400,000
5 9 14		100,000	14	100,000	1,400,000
5 9 28	150,000		9	250,000	2,250,000
5 10 7		250,000	9	0	0
5 10 16	150,000		2	150,000	300,000
5 10 18	50,000		13	200,000	2,600,000
計	550,000	350,000			11,950,000
			183		65,301
			74		161,486

(2) 定期預金

元帳から判明する定期預金は、大正 11 年のみである。通知預金で断ったように、大正 6～10 年の元帳が欠如しているため、その間は不明であるが、それ以前も定期預金はなかった公算が大きい。判明した定期預金の実績は、三井、第一、正金の 3 行のみで、三井銀行が抜群に多額である。残高でみて三井は 10 年下期 1,400 万円、11 年上期 2,000 万円、下期 2,500 万円の巨額であり、第一が 300 万円、正金 200 万円であった。入出金をみると、三井は件数も多く、金額も多額である。すなわち期中に定期で預け、取り崩すことを繰り返していたわけである。期間は 6 カ月、年利率 6%、多くが期限に更新されており、1 件 50 万円に分割預け入れが通例である。ただし、11 年上期に 1 件 500 万円、下期に 1 件 1,000 万円があるが、文字通り例外である。それに対して第一は、期間 6 カ月、年利率 6%は三井と同様、大正 11 年 4 月に 300 万円を 100 万円 3 口に分割預け入れ、満期の 10 月には 300 万円一本で実質上継続している。正金の定期は 11 年 8 月 16 日と 30 日に各 100 万円預け入れ、翌年まで継続しているが、6 カ月定期であろう。

以上のように定期預金も余剰資金の運用とみられるが、出し入れしやすいように 50 万円あるいは 100 万円単位とし、期間 6 カ月で統一され、期日に継続更新されて、もう少し長期となっていた模様である。預け先は合名会社期でも中核となっていた三井、第一、正金の 3 行に限られ、特に三井に集中していることが注目される。残高は通知預金より遙かに多額であり、余裕金がより長期に、安定的に運用されていたことを意味する。

3) 受取利息からの検証

それでは各種預金がどれだけの規模であったのか、受取利息額から検証してみよう。預金種類にかかわらず利率が同一ならば、受取利息の多寡によって元本に相当する預金額を逆算することが可能なはずである。しかし現実には預金種類によって利率を異にするから、各種預金間の預金額(積算額)の比較はできない。しかし同一預金について各決算期間での規模は計算し得るし、どの種類の預金からの受取利息が多かったかは知ることができよう。このことを念頭に第9表で預金種類ごとの受取利息、銀行別の受取利息を考察した結果は次のようである。

第1に、明治43(1910)年以降大正3(1914)年までは当座預金利息のみと云っても過言ではない。三井銀行を筆頭に少額ながら第一、正金、香上、住友、台湾、第百、興銀、十五の多数行に当座利息が発生している。香上銀行の3年上期のみ多額なのは別口当座預金が臨時的にあったからである⁽¹⁾。大正4年以降当座預金利息は増加し、それまでの半期1万円未満が10年下期には4万円強、11年上期には6.3万円の多額となる。増加の主因は三井銀行で、他行は多くて半期数千円程度であった。

第2に、判明した時期での累計であるが、当座預金利息19万円に対して、通知預金利息は81万円、定期預金利息が87万円で、多額の余剰資金が通知・定期に運用されたことを意味している。通知預金は、大正4、5年では半期数万円程度であったが、10年下期には32万円の多額となり、11年も20万円前後が続く。定期預金は11年上期に一举に33万円、下期には55万円という多額である。

第3に、銀行別にみた場合(累計)、通知預金利息は三井19万円に対し、第一21万円、正金15万円、十五・台湾各9万円、香上5万円と続き、数行に分散している。三井だけに集中せず、他行にもかなり多額を配分していたのである。他方、定期預金利息では三井だけで74万円、第一13万円で、圧倒的に三井へ集中していた⁽²⁾。

- (1) 香上銀行では、大正2年11月5日に15日分1,350円、8日に2,850円、翌3年1月16日に11月20日～1月16日分として5,415円の別口当座預金利息が計上されている。3回目の計上では500万円の利子とあるので、何らかの事情から500万円を通常の当座勘定とは別に預けたことが知られる。第9表では大正3年上期の当座預金利子は10,412円とあるが、別口当座預金利子9,615円を含んでいるので、通常の当座預金利子は差引の797円であろう。

同行の5年下期の「その他」19,109円も「31日、4.5%別口預金利子」とあるので、そこでも多額の預金が臨時的にあったことを意味する(逆算すると元本500万円と計算される)。同行のこれら別口当座預金は、発生した利子から推測すれば、かなり多額の預金であったわけで、発生の事情、つまり物産と香上との特別な取引関係が知りたいも

第9表 受取利息の銀行別・種類別

銀行名	種類	(単位:円)															
		明43上	43下	44上	44下	45上	45下	大2上	3上	3下	4上	5上	10上	11上	11下	計	
三井銀行	当座	1,149	3,363	2,510	2,540	2,532	4,335	2,040	3,313	3,859	5,773	14,974	46,526	94	90,498		
	通知										22,663	43,312	22,426	102,091	190,492		
	定期												326,250	414,492	740,742		
	戻入											1,668	328	3,143	7,357		
	計	1,149	4,275	2,510	3,500	2,532	4,681	2,040	3,313	3,859	28,436	59,954	395,530	519,820	1,029,089		
第一	当座	849	178	134	116	110	85	1,109	349		545	5,229	2,842	1,849	13,261		
	通知										1,090	140,286	67,832		209,208		
	定期										1,635	145,515	70,674	133,255	133,255		
	計	849	178	134	116	110	85	1,109	349		1,635	145,515	70,674	133,255	133,255		
正金	当座		1,141	565	813	1,428	1,115	1,397	1,933	5,096	1,283	3,691	2,348	39,280	20,245		
	通知									3,060	857	84,054	27,476	154,727			
	その他																
	戻入													5,640	5,640		
	計	1,141	539	341	474	483	738	10,412	1,071	1,834	1,904	2,631	2,077	1,582	24,319		
番上	当座	574		565	813	1,428	1,115	1,397	1,933	8,156	2,140	87,745	29,824	57,572	193,264		
	通知										1,904	20,180	15,612	18,449	54,241		
	その他									3)	19,109	22,811	17,689	20,031	97,669		
	計	574	539	341	474	483	738	10,412	1,071	1,834	21,013	22,811	17,689	20,031	191,099		
興業	当座							51	334	982	1,088	1,063	706	280	4,504		
	戻入	5,702													5,702		
	計	5,702													5,702		
住友	当座		87	29	103	216	233	210	892	1,971	1,213	1,213	510	7,333			
	通知									2,042	1,227	2,569	1,767	1,616	11,151		
	戻入				116	493	532	509	280	15,792	15,881	3,720	31,356	19,025	85,774		
	計				116	493	532	509	280	15,792	15,881	3,720	31,356	19,025	85,774		
第百	当座				116	493	729	509	280	17,834	17,108	6,289	33,748	20,641	97,747		
	通知										232	1,947	1,084		5,456		
	計				116	493	729	509	280	17,834	17,108	6,289	33,748	20,641	97,747		
第十五	当座					115	194	397	189	1,008	10,373	1,947	1,084	1,107	22,488		
	通知									12,306	10,605	1,947	1,084	1,107	27,944		
	計					115	194	397	189	12,306	10,605	1,947	1,084	1,107	27,944		
第二	当座								43	419	116	1,731	1,115	1,084	4,508		
	通知									6,622	1,341	25,875	39,673	16,459	89,970		
	計								43	7,041	1,457	27,606	40,788	17,543	94,478		
川崎	当座										5)	296	255	285	836		
	通知											296	255	285	1,025		
	計											296	255	285	1,025		
日仏	当座											73	188	217	129	577	
	通知																
	計																
朝鮮	当座											37	1	1	40		
	通知																
	計																
漢城	当座											3,007	2,186	1,312	6,505		
	通知																
	計																
釜山	当座																
	通知																
	計																
大正海上	当座																
	通知																
	計																
不明	当座																
	通知																
	計																
合計	当座	8,274	6,220	3,579	5,122	5,377	7,775	16,125	8,404	62,313	83,758	360,115	595,233	775,512	1,934,228		
	通知	2,572	5,308	3,579	4,162	5,377	7,232	16,125	8,404	17,451	12,444	40,540	63,219	9,450	192,284		
	定期									36,482	52,205	317,427	204,375	196,411	806,900		
	戻入										8,380	19,109	480	436	6,109	34,514	
	計	5,702	912	960	960	543	543	16,668	953	15,795	34,913	775,512	1,934,228				
備考1)その他の内容は次の通り	1)為替引当金の利息	2)正金数量	3)割引口	4)当座積立金	5)3月期定期預金	6)1/5~31/10	7)50万円@2.5										
	8)単に(利息)の表示	9)マニエ政府へ供託U.S.自由公債使用料	7,6310円は大日本人造肥料約束手形に対する利子(銀行名不詳)	20,700円は手形償却代金													
	(番上、正金)に対する利息																

のである。

- (2) 正金銀行にも定期預金があるので第9表に登場しそうなものだが、8月16日と30日に各100万円預金されたので、その中には利息はまだ計上されていない。

5. 元帳における借入金等

1) 借入金

元帳で借入金と明示されているのは、株式会社期を通じて日本興業銀行、台湾銀行、大正海上保険の3行社しかない(すでに第5表で示してある)。

興銀借入では、合名会社期から55万円が引き継がれている。漢陽鉄廠貸付資金として借りた100万円の未償還残金である。

台湾銀行借入は、大正2(1913)年2月福州電気公司貸付資金として借りる契約を結び、総額20万円であった⁽¹⁾。第1回は同年4月、6万円と41,951円の2口、6月に3,000円、10月に18,048円と25,000円の2口、そして3年7月に残り52,000円を借りている。5年下期では19万円の借入残があるので、1万円が返済されたが、10年には借入残はみられないので、6～10年の間に返済したとみられる。借入目的が中国投資と明示され、数年にわたる貸付であって、一般的な借入とは区別されよう。

物産の子会社である大正海上保険からの借入もあった。借入は、大正10(1921)年下期以前に30万円が発生しており、11年では30万円を2カ月で更新を続け、11年以降いつまで継続されたか不明である。同社宛の為替手形を発行する方式で、期日通りきちんと継続され、実質上中期ないし長期の借入となっていた(金利は日歩2銭)。なぜこの方式なのか、なぜ子会社から借りねばならないのか、借入事情も明らかでない。

また、明治44年下期に大阪第2別口勘定、横浜第2別口勘定が元帳に設けられ、内容を検討するに支店ベースでの借入金と推定される。すなわち、大阪第2別口勘定では整理すると次のような形となる。

借入日	銀行名	借入額	返済日	返済金額	期間
7月8日	台湾銀行借入金(8/3期日)	150,000円	8月3日	150,000円	27日
〃	鴻池銀行 (8/7 〃)	200,000	8月7日	200,000	31
〃	三井銀行 (8/26 〃)	300,000	8月26日	300,000	50

三井、鴻池、台湾の3行から同時に借入れ、異なった期間で返済している。いずれも短期間であり、三井への依存がやや大きいことが分かる。

横浜第 2 別口では元帳に「借入金」の添え書きがあり、支店での借入事例を物語っている。その模様を整理すると第 10 表のようである⁽²⁾。43 年上期では「本部ヨリ借入」として 3 件計 100 万円があり、半年後に「台湾銀行約手支払フ」とあるので、本部が台銀から借りて横浜支店に貸し、横浜支店が台銀に返済したとみられる⁽³⁾。下期でも「本部ヨリ借入」8 件 300 万円が計上されているが、返済面が見当たらないのは不可解である⁽⁴⁾。44 年上期では三井、正金両行からの借入 7 件 180 万円があり、ほぼ 2 カ月後に返済される形である。44 年下期も 7 件 170 万円があり、ほぼ 2 カ月で返済されている。

因みに、同時期の支店勘定では、多くの支店で「〇〇支店別口」が、少数の支店で「〇〇支店第 2 別口」が設けられている。「別口」では主に本店との有価証券貸借が内容である。「第 2 別口」では大阪、横浜だけが借入金を内容とするが、それ以外では別内容である⁽⁵⁾。

- (1) 大正 3 年下期の元帳には「大正 2 年 2 月 1 日契約書ニヨル福州電気公司貸渡金トシテ第 3 回ニ借受クベキ 8 万円ノ残 52,000 円」の記載があり、3 回に分けての借入であったこと、それまでの 148,000 円と合計して 20 万円となり、それが借入総額と判断される。
- (2) 横浜支店第 2 別口の記載は時期によってまちまちで、借入と返済を対応させるのが難儀である。摘要欄における銀行名、約手番号、返済予定日、金額の整合性を勘案して、判明するものだけを対応させたもので、正確とは確言しがたく、概要を提示したわけである。
- (3) 3 件は 4 月 30 日に一括されているが、摘要では 4 月 6 日(期日 7 月 4 日)、13 日(7 月 11 日)、27 日(7 月 25 日)と記載され、返済日は 11 月 30 日に一括されているものの、11 月 7 日、14 日、26 日支払うとある。記載内容をどう読めばいいのか難しいが、3 件の借入を一括して 4 月 30 日に記載し、返済も一括して 11 月 30 日としているが、台湾銀行宛の約束手形を継続更新し、最後に横浜支店からその分を返済せしめていると解釈されようか。本部が台銀から借りた分(約手発行)を横浜支店へ回したものと解釈したわけである。
- (4) その中の 2 件だけは正金銀行約手とあるので、上期の台湾銀行約手と同様な事態と推測される。
- (5) 「第 2 別口」が設けられているのは、大阪、横浜支店の外に、京城、上海支店がある。京城は「三井銀行定期預金」であり(43 年上期以降 6 万円が続く)、上海は「日本興業銀行借入金担保品」であり(43 年上期諸公債 62 万円、45 年下期 45 万円など)、上海に借入金が存在が推測される。

第 10 表 横浜第 2 別口勘定の明細

43/上		(単位:円)	
借入日	摘 要	金額	返 済 日
4月30日	本部借入 6/4 期日4/7	330,000	11月30日
"	" 13/4 " 11/7	330,000	" " #91 14/11 "
"	" 27/4 " 25/7	340,000	" " #98 26/11 "
43/下			
6月15日	本部借入 18/5 期日15/8	300,000	
7月28日	" 23/7 " 20/10	200,000	
"	" 25/7 " 22/10	300,000	
9月20日	" 20/9 " 19/12 正金約手#85	200,000	
26日	" 26/9 " 24/12 " #86	300,000	
10月25日	" 23/8 " 17/11	200,000	
"	" 6/8 " 4/11	200,000	
"	" 10/8 " 7/11	300,000	
44/上			
11月15日	正金銀行借入金 約手#5 13/1/44	300,000	12月22日 台湾銀行 #6 大阪ニテ返済ス "
12月24日	三井銀行 約手#20 17/2/44限 20/12借入ル	300,000	12月17日 台湾銀行 #4 大阪ニテ返済ス
12月27日	三井銀行 約手#25 21/2/44限 24/12借入ル	200,000	
2月16日	正金銀行 約手#55 17/4/44 借入	200,000	2月16日 正金銀行 約手#18 期日払
2月17日	三井銀行 約手#56 22/4/44 借入	300,000	2月17日 三井銀行 約手#20 期日払
2月21日	三井銀行 約手#57 26/4	200,000	2月21日 三井銀行 約手#25
2月21日	正金銀行 約手#58 19/4 借入	300,000	2月21日 正金銀行 約手#24 期日払
2月21日		200,000	4月17日 正金銀行 約手#55払
4月18日	正金銀行 約手#71 期日 16/6/44	200,000	4月26日 (三井銀行)
20日	正金銀行 #72 期日 19/6	300,000	4月19日 正金銀行 #58 期日立替払
26日	(三井銀行 " #74)	200,000	
27日	(" " #73)	300,000	
6月17日	正金銀行約手#82 14/8貸渡ス	300,000	6月17日 正金銀行約手#71ニテ貸金入
19日	" " #83ニテ貸渡ス	300,000	19日 " " #72貸渡分戻入ル
26日	" 借入金#84 24/8期日	100,000	26日 三井銀行約手#74貸渡金入ル
			27日 " " #73貸渡金入ル
			8月14日 正金銀行借入金#82 返済/為入ル
			17日 " " #83 "
			21日 三井銀行引回金入ル

2) 支払手形

前述のごとく、明治 43(1910)年上期以降大正 2(1913)年上期までの支払約束手形、大正 3 年下期と 4 年上期の支払為替手形、大正 5 年下期の支払手形の中に、手形形式の借入金が含まれており、その内容を明らかにしなければならない。元帳の欠如部分が明治 45 年上期、大正 2 年下期、3 年上期、4 年下期、5 年上期の多くあって、十分な解明ではないが、判明する限りを整理したのが第 11 表である。すなわち、銀行別に各決算期中の支払手形の発行(借入)、同決済(返済)を計算したものである(いずれも期中の累計)。まず、上段の支払手形をみよう。

第 1 に、支払手形による借入規模が期によって大きく変動している。明治 43 年上期の 1,366 万円から 43 年下～44 年下期には 600～800 万円となり、45 年下期は 378 万円と少なく、さらに大正 2 年上期は僅か 6 万円となっている。先に第 5 表で見た支払約束手形の残高が、43 年上期以降 441 万円、371 万円、186 万円、155 万円であったこと、45 年上期 245 万円、下期 70 万円、大正 2 年上期 20 万円であったことを想起すれば、株式会社期になってからの 2 年間は確かに借入は活発であり、45 年から大正初期には借入が大幅に縮小したとみられる。

第 2 に、借入先は 10 行に及ぶが、三井、正金、鴻池、台湾の 4 行が每期並び、借入額で全体の大部分を占めている。十五、百十、第十、住友、村井、川崎は散発的であり、借入額も少ない。

個別にみれば、三井銀行からの借入がほぼ每期最多であり、次いで正金、さらに鴻池、台湾と続く。借入単位は 6 万円の例外があるが、1 件 10 万円、20 万円、30 万円が通常である。

第 3 に、各行における期中の借入額と返済額が食い違っているのは返済が期をまたがっていることを意味し、逆に一致しているのは借入が期中に返済されているわけである。一致は明らかに短期借入であることを意味しているが、不一致でも単に期を跨っただけで短期の可能性はある。

次に、支払為替手形での借入であるが、第 11 表の下段に示した通り 3 期しか判明しない。大正 3 年下期 600 万円と 4 年上期 1,800 万円のごとく多額であり、かつ三井銀行だけである。5 年下期は少額で、三井 100 万円と興銀 30 万円のみ、元帳の欠如する 4 年下期、5 年上期が不明なのは残念である。3 年下期は第一次大戦の勃発の時期であり、他行から借りられず三井銀行に大きく依存したと思われる。

明治 43 年上期以降大正 5 年下期までの累計を整理すると、第 11 表の最下段のごとくとなる。三井銀行の 4,488 万円は隔絶した多額であり(全体の 69%)、鴻池 765 万円、正金 640 万円、台湾 481 万円が続く。村井、興銀(各 30 万円)、十五、百十、第十、住友(各 20 万円)、川崎 10 万円であって、7 行合計で 150 万円(全体の 2%)に過ぎない。

支払手形形式による借入期間はどの程度であったか。支払手形について個別に発行と決済を

第 11 表 支払手形等の銀行別借入・返済状況

(単位:円)

決算期	銀行名	借 入		返 済	
		件数	金額	件数	金額
明43/上	三井銀行	18	7,360,000	13	5,560,000
	正金	3	600,000	2	300,000
	十五	1	200,000	1	200,000
	百十	2	200,000		
	鴻池	6	3,800,000	6	4,200,000
	台湾	5	1,500,000	3	1,250,000
	小計	35	13,660,000	25	11,510,000
43/下	三井銀行	15	3,660,000	19	5,260,000
	正金	3	900,000	2	700,000
	百十			2	200,000
	鴻池	6	1,450,000	6	1,800,000
	台湾	7	1,650,000	2	500,000
	小計	31	7,660,000	31	8,460,000
44/上	三井銀行	21	5,060,000	17	3,860,000
	正金	5	1,400,000	5	1,400,000
	第十	1	200,000	1	200,000
	住友	1	200,000	1	200,000
	鴻池	6	1,300,000	7	1,550,000
	台湾			9	2,500,000
	小計	34	8,160,000	40	9,710,000
44/下	三井銀行	9	2,300,000	14	3,460,000
	正金	10	2,420,000	10	2,270,000
	鴻池	2	400,000	2	400,000
	台湾	3	1,200,000	3	1,200,000
	村井	2	300,000	2	300,000
	小計	26	6,620,000	31	7,630,000
45/下	三井銀行	5	1,500,000	4	1,300,000
	正金	6	1,080,000	9	1,680,000
	十五			1	100,000
	川崎	1	100,000	2	250,000
	鴻池	3	700,000	3	600,000
	台湾	2	400,000	2	400,000
	小計	17	3,780,000	21	4,330,000
大2/上	三井銀行			2	500,000
	台湾	1	60,000	1	60,000
	小計			3	560,000
支払為替手形					
3/下	三井銀行	7	6,000,000	7	6,000,000
4/上	三井銀行	15	18,000,000	10	12,000,000
5/下	三井銀行	1	1,000,000		
	興業	3	300,000	3	500,000
	小計	4	1,300,000	3	500,000
明 43 上 — 大 5 下 累 計	三井銀行	91	44,880,000	86	37,940,000
	正金	27	6,400,000	28	6,350,000
	十五	1	200,000	1	200,000
	百十	2	200,000	2	200,000
	鴻池	23	7,650,000	24	8,550,000
	台湾	18	4,810,000	20	5,910,000
	第十	1	200,000	1	200,000
	住友	1	200,000	1	200,000
	村井	2	300,000	2	300,000
	川崎 興業	1 3	100,000 300,000	2 3	250,000 500,000
計	170	65,240,000	170	60,600,000	

対応させれば借入期間(日数)が計算可能である。すべての手形の検証結果を提示するのは、分量が多すぎるので付表1としたが、ここではその結果だけを指摘しよう。

件数は累計190であるが、その内訳は半月まで4件、1カ月まで13件、2カ月まで101件、3カ月まで19件、6カ月まで1件、半年以上12件、不明38件である⁽¹⁾。2カ月程度の手形が全体の5割強を占め、3カ月程度が1割であって、短期借入がほとんどである。件数の多い三井銀行だけをとっても、全体の傾向と大差ない。半年以上が12件にとどまっているが、よくみると2カ月手形、3カ月手形を期日に書き換え継続したと推測されるものが散見されるので、実際はもう少し多いかも知れない。

- (1) 期間を厳密に区切ると、実態と乖離する可能性があるので、「まで」は数日間ゆるめて計算した。たとえば61日や62日は「3カ月まで」に分類するよりは「2カ月まで」に含めた方が実態に近いからである。

3) 手形割引

次に手形割引はどうか。元帳では明治44(1911)年上期から大正4(1915)年上期まで割引手形の科目が設定されている。逆に言えば、それ以前とそれ以後の期では手形割引がなかったといつてよかろう。明治45年上期、大正2年下期が欠如しているが、ほぼ連続して3年半分の考察が可能である。第12表で、銀行別に各期の割引額と決済額をみよう。

第1に、割引額(期中累計)は期によって大きく変動している。すなわち、明治44年上期～大正3年上期では每期30～85万円であり、3年下期と4年上期は180万円前後に急増している。後者は前述の支払為替手形の多額発行と符合し、資金需要の高まりを反映するものであろう。

第2に、時期によって割引銀行はかなり変化し、割引額も常に三井銀行中心とは限らない。判明した7期のうち、6期登場するのは三井と住友、4期が東海、3期が第一、十五、川崎で、他の森村、正金、第百、興業、豊国、中井、台湾は1、2期である。支払手形で活発に登場した鴻池が手形割引では姿を見せず、正金、台湾も僅かなのは意外である。なお、「不明」は元帳に銀行名の記載がなく、分類できなかつたものである。

第3に、各期における割引額と決済額の関係は、支払手形でみた傾向と同様である。多くの銀行で一致しており、期中に決済されることが多いことを物語っている。銀行名「不明」の分が判明すれば不一致は一層少なくなるであろう。

第4に、明治44年上期～大正4年上期の累計でみると、三井が最多であり(211万円)、住友(101万円)が次ぎ、十五、第百、興銀が各50万円弱と続く。全体として三井への集中度は低く(34%)、住友を含めても50%、かなり分散しているといえよう。

第 12 表 手形割引の銀行別

(金額単位:円)

決算期	銀行名	件数	割引額	件数	決済額
明44/上	三井銀行	15	111,292	11	111,295
	住友 "	2	105,864	2	105,864
	森村 "	1	100,000	1	100,000
	計	18	317,156	14	317,159
44/下	三井銀行	12	79,078	10	79,080
	正金 "	6	72,140	5	67,737
	東海 "	1	100,000	1	100,000
	森村 "	1	150,000	1	150,000
	豊国 "	2	250,000	2	250,000
	中井 "	2	200,000	2	200,000
	計	24	851,218	21	846,817
45/下	三井銀行	2	183,900	5	583,900
	十五 "	3	233,900	3	233,900
	住友 "	1	200,000	1	200,000
	台湾 "	1	8	1	8
	計	7	617,808	10	1,017,808
大2/上	三井銀行	4	283,900	5	333,900
	第一 "	1	50,000		
	東海 "	1	50,000	1	50,000
	住友 "	2	100,000	2	100,000
	川崎 "	1	50,000	1	50,000
	計	9	533,900	9	533,900
3/上	第一銀行	1	50,000		
	東海 "	1	50,000	1	50,000
	住友 "	2	200,000	2	200,000
	不明	1	50,000	1	50,000
	計	4	300,000	4	300,000
3/下	三井銀行	5	550,000	5	550,000
	第一 "	1	200,000	1	200,000
	十五 "	1	100,000	1	100,000
	第百 "	3	300,000	1	200,000
	東海 "	1	50,000	1	50,000
	住友 "	2	200,000	2	200,000
	川崎 "	1	100,000		
	興業 "	3	350,000	4	350,000
	不明	4	29,359	4	29,359
	計	21	1,879,359	19	1,679,359
	4/上	三井銀行	6	900,000	3
第一 "		1	30,000		
十五 "		1	150,000		
第百 "		2	170,000	1	100,000
住友 "		2	200,000	2	250,000
川崎 "		1	30,000		
興業 "		1	80,000		
不明		3	190,000	6	800,000
計		17	1,750,000	12	1,500,000
明 44 上 大 4 下 累 計		三井銀行	44	2,108,170	39
	住友 "	11	1,005,864	11	1,055,864
	森村 "	2	250,000	2	250,000
	正金 "	6	72,140	5	67,737
	東海 "	4	250,000	4	250,000
	豊国 "	2	250,000	2	250,000
	中井 "	2	200,000	2	200,000
	十五 "	5	483,900	4	333,900
	台湾 "	1	8	1	8
	第一 "	4	330,000	1	200,000
	川崎 "	3	180,000	1	50,000
	第百 "	5	470,000	2	300,000
	興業 "	4	430,000	4	350,000
	不明	7	219,359	11	879,359
合計	100	6,249,441	89	6,195,043	

割引手形では銘柄にも関心が持たれよう。第 13 表は割引かれた手形を会社別に整理し、第 14 表はさらに割引銀行別に整理したものである。

第 1 に、対象期間中の累計でみると、大日本人造肥料 480 万円が圧倒的に多額で、全体の 77%に及ぶ。三井系の堺セルロイド、北海道炭砒汽船、王子製紙の 3 社で 62 万円(10%)、浦賀船渠、東洋汽船を含めても、銘柄数は少ない。

第 2 に、大日本人造肥料の手形は対象期間中每期割引かれているが、それ以外は特定の決算期だけ割引かれており、特に東洋汽船、浦賀船渠、北海道炭砒汽船は臨時的な事例であった。堺セルロイドは明治 44 年に集中し、かつ手形枚数が多かった。大正 4 年上期の「不明」70 万円は銘柄の記載がないためやむなく「不明」としたが、周辺の状況から王子製紙と推測され、そうだとすれば王子製紙が大日本人造肥料に次いで多額と云うことになる。

第 3 に、銀行別にみれば堺セルロイドは三井と正金、東洋汽船は三井と住友、浦賀船渠は東海と中井、北海道炭砒汽船は第一のみのごとく、割引先が限定的である。ところが大日本人造肥料は三井以下 11 行で割られ、ないのは正金と台湾のみである。王子製紙も不明分を含むと仮定すれば、三井以下数行で割られていた可能性が高い。

また、三井は大日本人肥、堺セルロイド、王子製紙の多くの部分を割引、住友も大日本人肥を多額に割引いていたことが注目される。

最後に割引手形の期間に触れておこう。支払手形の考察と同様に割引期間を計算したのが、付表 2 である。そこから得られた結果は次のようである。

件数は 111 件、半月までは零、1 カ月までは 12 件、2 カ月までは 27 件、3 カ月までは 40 件、6 カ月までは 1 件、不明 31 件である。3 カ月までが 36%、2 カ月までが 24%で、両者併せて 6 割となる。支払手形での借入が 2 カ月中心であったから、割引手形はそれより 1 カ月長いわけである。企業の振出しが 3 カ月中心であり、受取った物産はそれを割引にまわすということである。また、付表の摘要に示しておいたが、「振替」「書替」「継続」と明示されているものが大部分を占め、現実には 4 カ月間、6 カ月間に延長されている模様である。

4) 支払利息からの検証

それでは支払利息から借入等の規模を検証してみよう。第 15 表は、決算期毎に各銀行に対して支払った利息等、その種類別に整理したものである。種類とは、1=借入金利息(証書借入)、2=当座借越利息、3=約束手形振出による支払利息(手形借入)、4=商業手形割引料、5=送金関係利息、6=証券借入利息、保=保証料、9=その他という区分である。

第 1 に、種類別に当該期全体をみると(第 15 表の最下欄)、手形借入利息が 60 万円で、全体の 69%を占め、借入金利息 8.6 万円、手形割引料 3 万円と隔絶している。つまり借入方式が証

第13表 割引手形の手形別

(金額単位: 円)

決算期	堺セルロイド		大日本人肥		東洋汽船		浦賀船渠		北海道炭鉱		王子製紙		不明		計	
明44上	14	97,387	2	195,800	2	23,969									18	317,156
下	17	146,815	5	600,000			2	104,403							24	851,218
45下			6	617,800							1	8			7	617,808
大2上			9	533,900											9	533,900
3上			4	300,000											4	300,000
下			16	1,650,000					2	207,537	3	21,822			21	1,879,359
4上			8	900,000							4	150,000	5	700,000	17	1,750,000
計	31	244,202	50	4,797,500	2	23,969	2	104,403	2	207,537	8	171,830	5	700,000	100	6,249,441

第14表 割引手形の銀行別

(金額単位: 円)

	堺セルロイド		大日本人肥		東洋汽船		浦賀船渠		北海道炭鉱		王子製紙		不明		計	
三井銀行	26	176,465	15	1,517,800	1	13,905							2	400,000	44	2,108,170
森村			2	250,000											2	250,000
正金	5	67,737													5	67,737
豊国			2	250,000											2	250,000
中井			2	200,000			1	4,403							3	204,403
住友			10	995,800	1	10,064									11	1,005,864
東海			3	150,000			1	100,000							4	250,000
十五			4	333,900									1	150,000	5	483,900
台湾											1	8			1	8
第一			2	100,000					1	200,000	1	30,000			4	330,000
川崎			2	150,000							1	30,000			3	180,000
第百			4	400,000									1	70,000	5	470,000
興銀			3	350,000									1	80,000	4	430,000
不明			1	100,000					1	7,537	5	111,822			7	219,359
計	31	244,202	50	4,797,500	2	23,969	2	104,403	2	207,537	8	171,830	5	700,000	100	6,249,441

第15表 銀行別支払利息（種類別）（明43／上～大11／下）

（金額単位：円）

		明43上	43下	44上	下	下	大2上	3上	下	4上	5下	10下	11上	下	計
1 三井銀行	1			117	2,430					12,200					14,747
	2			16	25										41
	3	45,413	16,954	26,932	15,483	10,653	4,397	1,333	79,200	236,271					436,636
	4		71	496	706	2,513				4,758					8,544
	5													305	2,061
	6											734		450	1,184
	保											13,950		3,129	17,079
	9								10,810						10,810
	計	45,413	17,025	27,561	18,787	13,166	4,397	1,333	90,010	253,229		14,684	3,894	1,613	491,102
2 第一	3							391				52,041			52,432
	4									246				246	
	保計						391			246		8,750			8,750
3 正金	1														118
	3	3,735	2,400		11,889	11,053			118						29,077
	4				568										568
	5							40					27,347	17,066	44,453
	9					49						4			53
計	3,735	2,400		12,457	11,102	40		118				27,347	17,066	74,269	
11 第三	4		37									4,971			5,008
	計														3,476
5 十五	3	840				2,636									899
	計	840				2,636				899					4,375
13 百十	3	1,500													1,500
24 涌池	3	24,356	8,141	6,299	4,444	2,826									46,066
25 台湾	1						197	606	11,840			15,274			27,917
	3	5,242	2,250		9,314	3,087									19,893
	4			40											40
	5												12,669	3,256	15,925
	計	5,242	2,250	40	9,314	3,087	197	606	11,840			15,274	12,669	3,256	63,775
26 三菱	1	6,248			4,990	4,072	3,570	2,692	2,256	1,795	454				26,077
	5													640	
	計	6,248			4,990	4,072	3,570	2,692	2,256	1,795	454			640	
22 住友	3			1,500		2,550	1,498								5,548
	4		42	1,014						2,465	1,531				5,052
	計		42	2,514		2,550	1,498			2,465	1,531		4,538	156	4,694
15 東海	3				1,079		720								1,799
	4			18				663	848	700				2,229	
	計			18	1,079		720	663	848	700				4,028	
27 興業	1			7,500					5,206		2,172				14,878
	4									803				803	
	計			7,500					5,206	803	2,172			15,681	
28 第十	3		850											850	
4 香上	5				31	10								41	
29 森村	4				1,111									1,111	
30 豊国	4				1,226									1,226	
31 中井	3				1,573										1,573
	4				80									80	
	計				1,653										1,653
32 村井	3			1,540										1,540	
23 川崎	3						382								382
	4								3,475	270				3,745	
	計						382		3,475	270				4,127	
9 第百	4							900	1,696					2,596	
20 第二	2									24				24	
12 東京海上	1										2,263			2,263	
33 大正海上	3										10,860	14,340	10,860	36,060	
34 朝鮮	保											3,750			3,750
	5												5,966	5,966	
	計											3,750	5,966	9,716	
	インターナショナル	保												3,240	3,240
不明	4								1,965					1,965	
計	87,334	29,895	44,782	56,632	39,449	11,195	5,294	117,118	263,158	17,904	97,319	69,384	36,191	875,655	
種類別合計	借入金利息	1	6,248		7,617	4,420	4,072	3,767	3,298	19,420	13,995	17,900	2,263		86,000
	当座借越利息	2			16	25				24					65
	手形割引利息	3	81,086	29,745	35,581	45,322	32,805	7,388	1,333	79,200	236,271		62,901	14,340	636,832
	手形割引料	4		150	1,550	3,691	2,513			6,840	10,203		4,971		29,918
	送金関係利息	5			18	174	10	40	663	848	700			51,465	76,009
	証券借入利息	6											734	450	1,184
	保証料	保										26,450	3,129	3,240	32,819
	その他	9					49			10,810	1,965	4			12,828
	計	87,334	29,895	44,782	56,632	39,449	11,195	5,294	117,118	263,158	17,904	97,319	69,384	36,191	875,655

書借入でなく手形形式によるものが圧倒的になっていること、当座借越はなきに等しいこと⁽¹⁾、手形割引も主要な資金調達手段ではないことなどが示されている。

第 2 に、決算期毎の支払利息等の大きさであるが、時期によって激変している。すなわち明治 43～45 年では、当初の 9 万円弱を別とすれば半期 3～6 万円程度であり、大正 2～3 年は激減して 1 万円前後、3 年下期 12 万円と 4 年上期 26 万円は異常に多額であり、5 年下期は 2 万円弱に落ち込み、10 年下期 10 万円弱から 7 万円、さらに 4 万円と減少している。株式会社へ改組直後、第一次大戦初期、そして反動恐慌後に多額の支払額となっており、いうまでもなくその時期に多額の借入が発生したことを示している。第 11 表でみた支払手形の銀行別借入返済状況の推移と一応符合しているが、支払額の推移の方がより正確に借入推移を表していると思われる。

第 3 に、銀行別に支払利息累計額をみると、三井銀行の 49 万円は、全体 88 万円の 56% に当たり、抜群に多額である。それに次ぐのは正金 7.4 万円、台湾 6.4 万円、第一 6.1 万円である。前掲第 11 表と比較すると、三井、正金、台湾の多額は同様であるが、鴻池が落ち、第一が加わっているという違いが現れている。その理由は、鴻池の場合、大正期から借入が皆無となっていること、第一の場合、大正 10 年下期に 300 万円を 4 カ月間借りたことが影響している。

三井からの借入利息は、大正 3 年上期まで金額の大小はあれ每期みられ、3 年下期 8 万円、4 年上期には 24 万円に激増し、5 年以降皆無という激しい推移を辿っている。3 年下期に 250 万円と 300 万円の借入が発生し、4 年上期に幾度か継続した結果の多額であった⁽²⁾。その時期での多額の借り入れ需要の発生、そして 5 年以降は借入不要という変化であった。

なお、支払利息からの検証では、次の点に注意する必要がある。すなわち、金利水準の変動である。元帳での記載では、借入でも手形割引でも金利が記載されていることは稀なので、水準の変化を正確に追跡する事は不可能である。断片的な記載から推測すると、明治 43、44 年頃の三井銀行からの借入は日歩 1 銭 2 厘前後であったが、大正 3、4 年では日歩 2 銭 4 厘から 2 銭に移行中であった。仮に同一金利水準で補正すれば、前者は後者の 2 倍の支払利息になるはずで、借入元本の推算も 2 倍とせねばなるまい。上記の支払利息からの検証は金利水準の変化を考慮に入れないものであったから、時系列での考察ではこの点を配慮する必要がある。

- (1) 当座借越は三井銀行と第二銀行で発生している。すなわち、三井では明治 43 年 12 月 19 日～3 月 19 日間に 16 円、44 年 6 月 19 日～9 月 17 日間に 25 円、それぞれ当座借越利息が発生しているが、極めて少額である。第二では大正 4 年 6 月 16 日～9 月 30 日間に 24 円発生している。いずれも発生事情は明らかでないが、一時的なものといつてよく、当座借越が多用されたわけではなからう。いずれも期末には借越が解消している

ので、前述の当座預金の考察では現れず、利息面から初めて分かったものである。

また、当座借越がほとんどないとしたのは、残存する元帳から支払利息の有無を検討した結果であるが、第2表の金融表によれば大正6年下期737万円、7年上期1,414万円の借越残が記録されている。元帳の欠如部分において当座借越の発生が多額に、かつ多数行にある以上、「ほとんどない」は修正せざるを得まい。ただし、金融表も7年下期以降は欠けているので、いつまで当座借越が続いていたのかは明らかにし得ない。少なくとも10年下期以降は元帳で発生していないことは確認済みであるから、7年下期から10年上期までが不明のままということになる。

- (2) この借入は次のように継続されている。250万円口は4回継続で10カ月間、300万円口は2回継続で6カ月間と推測される。

決算期	借入日	金額	利率	期間	支払利息額	
大3/下期	大3.9.12	250万円	@24	60日	36,000円	
	〃 3.9.22	300	〃	〃	43,200	
大4/上期	〃 3.11.10	250	〃	〃	36,000	
	〃 3.11.18	300	〃	〃	43,200	
	〃 4.1.8	(250)	@22	〃	33,000	
	〃 4.1.18	(300)	@21	〃	37,800	
	〃 4.3.8	(250)	(@20)	(〃)	30,000	
	〃 4.3.18	250	@20	61	36,600	計 216,600円

(注) () 内は元帳に記載がないが、筆者が推算。

6. むすび

最後に、株式会社に改組してからの物産の銀行取引の特徴を要約しておこう。まず、借入金面であるが、当該期中の時期によって状況は大きく変化している。借入金等には証書借入、支払手形による借入、当座借越の3形態があり、各別にそれぞれを考察した。

第1に、証書借入は漢陽鉄廠貸付資金を興銀から借りたもの(未償還分55万円)、福州電気公司貸付資金を台銀から借りたもの(20万円)、子会社大正海上から借りたもの(30万円、借入事情不詳)だけで、それほど多額なものではない。

第2に、当座借越は残存する元帳からの検証ではほとんど見あたらないが、金融表で見ると、大正6年下期と7年上期に多額の当座借越残があるので、元帳が欠如している時期にかなりの当座借越が支店において発生したと推測される。金融表によれば、三井銀行を筆頭に多数行で

発生しており、借入金と並んで第一次大戦末期の資金需要に対処したものといえよう。その正確な規模は、資料がなく確定できない。

第3に、手形借入は借入面の中心的役割を果たしているが、時期によって大きく変化している。株式会社期になってからの2年間は借入が多額であったが、大正初期には大幅に縮小し、第一次大戦中に急増、元帳で分かる10年以降は皆無となっている。ただし、元帳欠如の時期を金融表でカバーしてみると、7年上期まではかなりの借入残高があり、それ以降10年までの期間に借入がなくなったと推測される。借入の中心は三井銀行であるものの、第一、正金、鴻池、台湾が三井を補完する形である。ただし当該期間を通じて借入があるのは皆無で、時期によって借入先が変化している。たとえば、鴻池、正金の借入は明治期に限られ、第一の多額借入は大正10年だけであり、三井でも長い間借入が続いたが何時終わったか明らかでなく、すくなくとも大正10、11年は借入がないという具合である。

第4に、手形割引も資金調達の一環をなすが、明治44～大正4年しか判明せず、割引規模は少額である。ただ、割引銀行数は13行と多く、当座や借入で見られなかった銀行がかなりの数登場している。三井が割引規模で最多であるが、住友がこれに次ぎ、他行は少額であった。銘柄は大日本人造肥料が多く、堺セルロイド、王子製紙がこれに次ぎ、北海道炭硯汽船、東洋汽船、浦賀船渠の手形が臨時に割られた程度である。ただ、元帳の割引手形勘定に明示されたものだけであり、それ以外で処理された割引が若干あるのかも知れない。いずれにせよ資金調達として大きな比重は持たなかったのである。

次に、預金面であるが、合名会社期とは大きく様相を異にしている。

第1に、当座預金の取引銀行が合名会社期の4行から14行へと大幅に増加している。先行する三井、第一、正金、香上の4行の当座利用度が依然として大きく、台湾、住友、第百がそれに続き、大正11年には十五、朝鮮も活発になるものの、興銀、古河、川崎、日仏、漢城は僅かな利用に留まっている。つまり当座取引銀行が大幅に増えたと言っても、利用程度に大きな格差があったのである。当座開設は一挙に増えたわけではなく、徐々に進行していったが、それほどまでに増やした必要性はどこにあったのであろうか。特に利用度の低い銀行の開設理由に疑問が残る。とはいえ当該期全体を一貫して三井の当座利用が抜群に大きく、毎日多額の入出金があり、残高も多額である(大正初期までは数十万円、5年以降100万円前後)。

第2に、多額な通知、定期預金の登場である。通知預金は大正3年に第一、台湾、十五で始まり、5年では第百、興銀、10、11年から三井、正金、香上も加わり、延べ8行になる。3年頃の残高は80万円、5年は200万円程度、10、11年には300～500万円程度となっている。三井に集中しているわけではなく、数行に分散されており、また、時期によって預け先が変化している。しかし通知の入出金を検証すると、三井では多額の資金が頻繁に出し入れされ、他行

とは隔絶した利用度であって、物産の三井依存の深さが現れている。他方、定期預金では大正10、11年に三井、第一、正金に登場し、巨額の定期が三井に集中している(11年下期で三井2500万円、第一300万円、正金200万円)。

要するに、通知も定期も物産に生じた余剰資金の運用である。第一次大戦中に若干額が通知として預けられたものの、10、11年に巨額に達しているのは、大戦中の多額の利益の蓄積、大戦終結後の物産の営業縮小→資金需要の低下、借入解消を反映したものであろう。

以上、株式会社期——といっても元帳が存在した一部の時期に限定されているが——の物産の預金、借入金等の状況を提示した。それは極めて乏しい物産の銀行取引データについてのファクト・ファインディングでもある。特に株式会社期については元帳の欠如部分が多く、連続的な考察が困難であって、関心の持たれる第一次大戦期後半から反動恐慌ごろまでの状況が解明できないのが残念である。元帳による本考察はそれなりに役立ったと思われるが、さらに、元帳以外によつての追求が必要であらう。

〔付記〕 本稿もまた三井文庫所蔵の三井物産元帳に全面的に依存している。元帳の閲覧、複写では、いつもながら同文庫の永井・大塚両氏に大変お世話になった。厚くお礼を申し上げる。

付表1 支払手形(明43上-大5下)借入・返済状況

(金額単位:円)

決算期	年	月	日	摘要	番号	金額	年	月	日	日数	金額
明43/上	M43	1	8	C232 三井銀行 #8 26/2/43 "	1	300,000	M43	2	26	49	300,000
	M43	1	11	C234 " #9 11/3/43 "	1	300,000	M43	3	11	59	300,000
	M43	1	20	C244 " #10 15/3/43 "	1	300,000	M43	3	15	54	300,000
	M43	1	24	C246 " #11 19/3/43 "	1	800,000	M43	3	19	54	800,000
	M43	1	26	C251 " #13 27/7/43 "(京城a/c)	1	60,000	M43	7	27	182	60,000
	M43	1	31	C256 三井銀行 #17 11/3/43 "	1	400,000	M43	3	11	39	400,000
	M43	1	31	" " #18 26/3/43 "	1	500,000	M43	3	26	54	500,000
	M43	1	31	" " #19 30/3/43 "	1	800,000	M43	3	31	59	800,000
	M43	2	5	C264 三井銀行 #21 5/4/43 "	1	500,000	M43	4	5	59	500,000
	M43	2	10	C271 " #23 11/4/43 "	1	300,000	M43	4	11	60	300,000
	M43	3	15	C317 三井銀行 #31 3/5/43 "	1	200,000	M43	5	3	49	200,000
	M43	3	31	C340 三井銀行 #36 13/5/43 "	1	400,000	M43	5	13	40	400,000
	M43	3	31	" " #37 16/5/43 "	1	400,000	M43	5	16	46	400,000
	M43	4	5	C350 " #38 24/5/43 "	1	500,000	M43	5	24	49	500,000
	M43	4	11	C358 三井銀行 #41 9/6/43 "	1	300,000	M43	6	9	151	300,000
	M42	12	6	C192 三井銀行 #2 24/1/43 "	1	500,000	M43	1	24	49	500,000
	M42	12	22	C213 " #3 5/2/43 "	1	500,000	M43	2	5	45	500,000
	M42	12	23	C214 " #4 10/2/43 "	1	300,000	M43	2	10	49	300,000
	M43	3	26	C334 正金銀行 #34 19/5/43 "	3	300,000	M43	5	19	54	300,000
	M42	12	30	C225 正金銀行 #5 12/2/43 "	3	200,000	M43	2	12	44	200,000
	M42	12	30	" " #6 " "	3	100,000	M43	2	12	44	100,000
	M43	1	29	C255 十五銀行 #16 4/3/43 "	5	200,000	M43	3	4	34	200,000
	M43	4	30	門司144 第一百銀行 #12 27/4-25/6/43限	13	100,000	M43	6	25	56	100,000
	M43	4	30	" " #16 30/4-28/6/43 "	13	100,000	M43	7	11	72	100,000
				鴻池銀行 #42			M42	11	5	?	1,000,000
	M42	11	5	C151 鴻池銀行 #1 6/1/43 限り	24	1,000,000	M43	1	4	60	1,000,000
	M43	1	4	C229 鴻池銀行 #7 15/2/43 "	24	1,000,000	M43	2	15	42	1,000,000
	M43	2	15	C276 鴻池銀行 #24 6/4/43 "	24	500,000	M43	4	6	50	500,000
	M43	2	15	" " #25 16/4/43 "	24	500,000	M43	4	16	60	500,000
	M43	4	6	C352 鴻池銀行 #39 3/6/43 "	24	500,000	M43	6	3	58	500,000
	M43	4	16	C366 鴻池銀行 #43 6/6/43 "	24	300,000	M43	6	4	49	300,000
				台湾銀行 #36			M42	11	6	?	500,000
				台湾銀行 #34			M43	1	26	?	60,000
				台湾銀行 #44			M43	2	2	?	500,000
	M43	2	2	大阪71 台湾銀行 #12 24/1より90日期限	25	250,000	M43	4	22	79	250,000
	M43	4	22	C376 台湾銀行 #44 21/7/43 "	25	250,000	M43	7	21	90	250,000
	M43	4	30	J638 台湾銀行 #40 7/7 限り 6/4借入横浜支店分	25	330,000	M43	11	30	214	330,000
	M43	4	30	" " #42 11/7 " 13/4 " "	25	330,000	M43	11	30	214	330,000
	M43	4	30	" " #45 25/7 " 27/4 " "	25	340,000	M43	11	30	214	340,000
43/下	M43	5	18	C415 三井銀行 約手 #47 16/6限り借入	1	300,000	M43	6	16	29	300,000
	M43	6	9	C449 三井銀行 " #51 4/7 " "	1	300,000	M43	7	4	25	300,000
	M43	6	16	C459 三井銀行 " #53 2/7 " "	1	200,000	M43	7	2	16	200,000
	M43	6	30	C479 " " #54 13/8 " "	1	300,000	M43	8	13	44	300,000
	M43	7	4	C486 " " #56 22/8 " "	1	200,000	M43	8	22	49	200,000
	M43	7	7	C491 " " #57 25/8 " "	1	200,000	M43	8	25	49	200,000
	M43	7	20	C502 三井銀行 " #61 10/9 " "	1	200,000	M43	9	10	52	200,000
	M43	7	20	" " #62 17/9 " "	1	300,000	M43	9	17	59	300,000
	M43	7	22	C507 三井銀行 " #68 20/8 " "	1	400,000	M43	8	20	29	400,000
	M43	7	27	C515 三井銀行 " #72 27/12 " "(京城a/c)	1	60,000	M43	12	27	153	60,000
	M43	7	29	C518 三井銀行 " #73 27/8 " "	1	200,000	M43	8	8	10	200,000
	M43	7	29	" " #74 6/9 " "	1	200,000	M43	8	8	10	200,000
	M43	8	15	C537 " " #80 13/10 " "	1	400,000	M43	10	13	59	400,000
	M43	8	20	C544 " " #82 18/10 " "	1	200,000	M43	10	18	59	200,000
	M43	10	27	C630 三井銀行 " #100 24/12 "	1	200,000	M43	12	24	58	200,000
	M43	7	18	C500 正金銀行 " #60 15/9 " "	3	400,000	M43	9	15	59	400,000
	M43	9	20	C584 正金銀行 " #85 19/12 " " 横浜a/c	3	200,000	M43	12	19	90	200,000
	M43	9	26	C591 " " #86 24/12 " " 横浜a/c	3	300,000	M43	12	24	89	300,000
	M43	6	3	C440 鴻池銀行 " #49 23/7 " "	24	250,000	M43	7	23	50	250,000
	M43	6	6	C444 " " #50 16/7 " "	24	250,000	M43	7	16	40	250,000
	M43	7	16	C499 鴻池銀行 " #59 3/9 " "	24	250,000	M43	9	3	49	250,000
	M43	7	23	C510 鴻池銀行 " #69 21/9 " "	24	250,000	M43	9	22	61	250,000
	M43	9	3	C566 鴻池銀行 " #83 2/11 " "	24	250,000	M43	11	2	60	250,000
	M43	10	27	" " #1010 24/12 "	24	200,000	M43	12	24	58	200,000
	M43	6	15	J132 台湾銀行 " #46 15/8 " "(横浜a/c 18/5借入)	25	200,000					
	M43	7	21	C505 台湾銀行 " #63 18/10 " "(大阪にて受け取る)	25	250,000	M43	10	18	89	250,000
	M43	7	28	J285 台湾銀行 " #65 20/10 " "(横浜a/c 23/7借入)	25	200,000					
	M43	7	28	" " #66 22/10 " "(横浜a/c 25/7借入)	25	300,000	M44	2	25	212	300,000
				台湾銀行 #4 大阪にて返済			M43	12	17		300,000
				台湾銀行 #6 大阪にて返済			M43	12	22		200,000
	M43	10	25	J524 台湾銀行 " #48 17/11 継続#81 "	25	200,000	M44	2	23	121	200,000
	M43	10	25	" " #77 4/11 " "	25	200,000	M44	3	6	132	200,000
	M43	10	25	" " #78 7/11 " "	25	300,000	M44	3	10	136	300,000
44/上	M44	1	20	C438 三井銀行 " #35 1/3/44 "	1	250,000	M44	3	1	40	250,000

M44	1	20	"	"	"	#36	4/3/44	1	250,000	M44	3	4	43	250,000				
M44	1	20	"	"	"	#37	21/3/44	1	300,000									
M44	1	24	C443	"	"	#40	27/3/44	1	300,000	M44	3	21	56	300,000				
M44	1	25	C445	"	"	#41	3/4/44	1	200,000	M44	3	29	63	200,000				
M44	1	26	C449	"	"	#44	5/4/44	1	200,000	M44	4	4	68	200,000				
M44	1	26	"	"	"	#45	5/4/44	1	100,000	M44	4	5	69	100,000				
M44	1	31	C455	"	"	#46	10/4/44	1	300,000	M44	4	10	69	300,000				
M44	2	1	C457	"	"	#47	12/4/44	1	200,000	M44	4	12	70	200,000				
						三井銀行	"	#56		M44	4	22	?	300,000				
						三井銀行	"	#57	横浜a/c	M44	4	26	?	200,000				
M44	3	6	C516	三井銀行	"	#63	8/5/44	1	300,000	M44	5	8	63	300,000				
M44	3	15	C515	三井銀行	"	#66	3/5/44	1	300,000	M44	5	3	49	300,000				
M44	3	21	C522	三井銀行	"	#69	24/4/44	1	300,000	M44	4	24	34	300,000				
M44	4	22	C563	三井銀行	"	#73	"	20/6	"	1	300,000	M44	6	27	97	300,000		
M44	4	26	C567	三井銀行	"	#74	"	24/6	"	1	200,000	M44	6	24	90	200,000		
M43	11	16	C653	三井銀行	"	#7	20/12/43	1	300,000	M43	12	20	34	300,000				
M43	11	26	C669	"	"	#8	24/1/44	1	300,000	M44	1	24	59	300,000				
M43	11	28	C670	"	"	#9	26/1/44	1	200,000	M44	1	26	59	200,000				
M43	12	1	C674	"	"	#10	1/2/44	1	200,000	M44	2	1	62	200,000				
M43	12	20	C695	三井銀行	"	#20	17/2/44	1	300,000									
M43	12	24	C406	三井銀行	"	#25	17/2/44	1	200,000									
M43	12	27	C410	三井銀行	"	#28	27/7/44	1	60,000	M44	8	9	225	60,000				
M43	12	19	C693	正金銀行	"	#18	16/2/44	3	200,000	M44	6	16	179	200,000				
M43	12	24		正金銀行	"	#24	21/2/44	3	300,000	M44	4	19	116	300,000				
M44	1	13	C428	正金銀行	"	#33	13/3/44	3	300,000	M44	3	13	59	300,000				
M44	4	20	C559	正金銀行	"	#72	"	19/6	横浜a/c	3	300,000	M44	6	19	60	300,000		
M43	11	15	C650	正金銀行	"	#5	13/1/44	3	300,000	M44	1	13	59	300,000				
M44	2	24	C492	第十銀行	"	#59	24/12	(At Sight)	13	200,000	M44	3	27	31	200,000			
M43	12	7	C681	住友銀行	"	#14	4/2/44	22	200,000	M44	2	4	59	200,000				
M44	1	6	C419	鴻池銀行	"	#29	7/3/44	24	250,000	M44	3	7	60	250,000				
M44	2	6	C463	鴻池銀行	"	#49	8/3/44	24	200,000	M44	3	8	30	200,000				
M44	3	8	C508	鴻池銀行	"	#64	12/4/44	24	200,000	M44	4	12	35	200,000				
M44	4	11	C547	鴻池銀行	約手	#70	期日	1/6	24	200,000	M44	6	1	51	200,000			
M43	11	2	C639	鴻池銀行	約手	#1	6/1/44	24	250,000	M44	1	6	65	250,000				
M43	12	24	C405	鴻池銀行	"	#27	6/2/44	24	200,000	M44	2	6	44	200,000				
44/下	M44	5	10	C589	三井銀行	約手	#76	期日	15/6	入	1	300,000	M44	6	15	36	300,000	
	M44	5	10	"	"	"	#77	"	23/6	入	1	300,000	M44	6	28	49	300,000	
	M44	5	10	"	"	"	#78	"	28/6	入	1	250,000	M44	6	28	49	250,000	
	M44	7	7	C671	三井銀行	"	#87	"	21/8	1	150,000	M44	8	21	45	150,000		
	M44	7	20	C685	三井銀行	"	#89	"	7/9	入	1	200,000	M44	8	19	30	200,000	
	M44	7	21	C687	"	"	#90	"	9/9/44	1	200,000	M44	8	19	29	200,000		
	M44	7	21	"	"	"	#91	"	14/9/44	1	300,000	M44	9	14	24	300,000		
	M44	7	21	"	"	"	#92	"	18/9/44	1	300,000	M44	9	18	59	300,000		
	M44	7	21	"	"	"	#93	"	20/9/44	1	300,000	M44	9	20	61	300,000		
	M44	6	16	C647	正金銀行	"	#82	"	14/8/44	"	横浜a/c	3	300,000	M44	8	14	59	300,000
	M44	6	19	C649	"	"	#83	"	17/8	"	"	3	300,000	M44	8	17	59	300,000
	M44	6	26	C655	"	"	#80	"	24/8	"	"	3	100,000	M44	8	24	59	100,000
	M44	7	17	C682	正金銀行	"	#88	"	4/9/44	3	150,000	M44	9	4	49	150,000		
	M44	7	24	C690	正金銀行	"	#94	"	11/9/44	3	120,000	M44	9	11	49	120,000		
	M44	8	14	C714	正金銀行	"	#97	"	5/10/44	3	300,000	M44	10	5	52	300,000		
	M44	8	17	C718	"	"	#99	"	10/10/44	3	300,000	M44	10	10	54	300,000		
	M44	8	24	C725	"	"	#100	"	16/10	3	200,000	M44	10	16	53	200,000		
	M44	10	16	C792	正金銀行	"	#103	"	29/11	3	450,000							
	M44	10	25	C8062	正金銀行	"	#105	"	18/12	3	200,000							
	M44	7	26	C694	鴻池銀行	"	#95	"	23/9	24	200,000	M44	9	23	64	200,000		
	M44	9	23	C767	鴻池銀行	"	#101	"	22/11	24	200,000							
	M44	9	20	C253	台湾銀行	"	#75	"	25/10	25	500,000	M44	10	25	35	500,000		
	M44	9	20	"	"	"	#76	"	4/11	25	500,000							
	M44	10	19	C795	台湾銀行	"	#104	"	25/11	25	200,000							
	M44	6	30	C660	村井銀行	"	#85	"	31/7/4	32	150,000	M44	7	31	31	150,000		
	M44	6	30	"	"	"	#86	"	15/8/44	32	150,000	M44	8	15	46	150,000		
45/下						三井銀行	"	#30				M45	5	7		300,000		
	M45	7	22	C168	三井銀行	"	#43	"	2/8	1	300,000	M45	8	2	11	300,000		
	M45	7	22	"	"	"	#44	"	2/9	1	400,000	M45	9	2	42	400,000		
	M45	9	9	C254	三井銀行	"	#57	"	22/10	1	300,000	M45	10	22	43	300,000		
	M45	9	20	C268	三井銀行	"	#59	"	8/11	1	300,000	T1	11	1	42	300,000		
	M45	9	27	C278	"	"	#60	"	15/11	1	200,000	T1	11	15	49	200,000		
						正金銀行	"	#21				M45	5	4		200,000		
						正金銀行	"	#22				M45	5	9		200,000		
						正金銀行	"	#25				M45	5	14		200,000		
						正金銀行	"	#29				M45	5	18		200,000		
	M45	6	22	C124	正金銀行	"	#39	"	20/8	3	200,000	M45	8	20	59	200,000		
	M45	6	24	C126	"	"	#40	"	12/8	3	200,000	M45	8	12	49	200,000		
	M45	7	25	C178	正金銀行	"	#47	"	12/9	3	200,000	M45	9	12	49	200,000		
	M45	8	12	C207	正金銀行	"	#50	"	10/10	3	200,000	M45	10	10	59	200,000		
	M45	8	19	C218	"	"	#52	"	15/10	3	140,000	M45	10	15	57	140,000		
	M45	8	20	C222	正金銀行	"	#54	"	18/10	3	140,000	M45	10	18	59	140,000		

				十五銀行 "	#23					M45	5	13		100,000	
				川崎銀行 "	#53					M45	5	13		150,000	
M45	8	19		" 川崎銀行 "	#53 "	17/10	23	100,000		M45	10	7	49	100,000	
				鴻池銀行 "	#33					M45	5	25		200,000	
M45	5	25	C86	鴻池銀行	約手	#36	24	200,000		M45	7	24	60	200,000	
M45	6	24		" 鴻池銀行 "	#41 "	23/7	24	300,000							
M45	7	24	C172	鴻池銀行 "	#45 "	23/8	24	200,000		M45	8	23	30	200,000	
M45	7	25	C177	台湾銀行 "	#46 "	7/9	25	200,000		M45	9	7	44	200,000	
M45	7	29	C186	台湾銀行 "	#48 "	16/9	25	200,000		M45	9	16	49	200,000	
大2/上	T2	2	1	C468	台湾銀行 "	#3 15/2	●電線公司買渡資金	25	60,000	T2	3	25	52	60,000	
				台湾銀行 "	#65					T2	3	8		200,000	
大3/下	3	8	25	C268	当社振出為替手形#1三井銀行宛			100,000		3	11	24	91	100,000	
	3	8	27	C282	"	#2 "		100,000		3	11	26	93	100,000	
	3	8		C282	"	#3 "		100,000		3	11	26	93	100,000	
	3	8	29	C284	"	#4 "	28/11限	100,000		3	11	26	91	100,000	
	3	8		"	"	#5 "		100,000		3	11	26	91	100,000	
	3	9	12	C324	当社振出為手	#6 "	10/11限	2,500,000		3	11	10	59	2,500,000	
	3	9	22	C358	"	#7 "	20/11限	3,000,000		3	11	20	59	3,000,000	
大4/上	3	11	10	C52	当社振出為手	#6 三井銀行	1	2,500,000		4	1	8	59	2,500,000	
	3	11	20	C637	為手	#9 "	1	3,000,000		4	1	18	59	3,000,000	
	3	11	24	C133	当社振出為手	#1期日に付#10に書替	1	100,000		4	1	22	59	100,000	
	3	11	26	C152	"	#2 25/1限に切替	1	100,000		4	1	25	60	200,000	
	3	11	26	"	"	#12 "	1	100,000							
	3	11	28	c173	"	#13 "	1	100,000		4	1	26	59	200,000	
	3	11	28	"	"	#14 "	1	100,000							
	4	1	8	c459	三井銀行払当社振出手形#8継続分		1	2,500,000		4	3	8	59	2,500,000	
	4	1	18	C512	"	#18 "	1	3,000,000		4	3	18	59	3,000,000	
	4	1	22	C538	当社振出為手#10期日継続		1	100,000		4	3	26	63	100,000	
	4	1	25	C551	"	#11,#12 "	三井銀行払	1	200,000		4	3	26	60	200,000
	4	1	26	C562	"	#13,#14 期日払	1	200,000		4	3	26	59	200,000	
	4	3	8	C855	三井銀行払当社振出手形#23	6/5限	1	2,500,000							
										4	3	11	?	1,000,000	
	4	3	11	C872	大阪振出手形#24	10/5	1	1,000,000							
	4	3	18	C910	当社振出手形#18継続手形	#25 17/5	1	3,000,000							
	4	3	26	C960	"	#19,20,21継続手形#24/5限,#26 24/5	1	500,000							
大5/下	5	9	13	C988	三井銀行宛当店振出為手#40	13/3/6限	1	1,000,000							
				興業銀行	振出手形	#37 借入金返済				5	6	23	?	300,000	
	5	6	23	C721	興業銀行振出手形	#38期日29/8借入金	27	100,000		5	8	29	67	100,000	
	5	8	21	C903	興業銀行払	為手#39 19/10限	27	100,000		5	10	19	59	100,000	
	5	10	19	C113	興業銀行払為手#41	18/12限借入金	27	100,000							

- 〔備考〕
1. 摘要欄は元帳の記載内容を可能な限り忠実に表示してある。
 2. 番号は筆者が与えた銀行に対する番号。
 3. 年月日は左側が支払手形の振出日(借入日)、右側が決済日(返済日)であり、借入・返済の対応は、筆者が摘要、番号、金額などから判定したもの。

付表2 手形割引 (明4 4 /上~大4 /上)割引・決済対応

(金額単位:円)

決算期	割引日	摘 要		番号	金額	決済日	摘要	日数	金額				
明44/上	M44	2	8	J305 堺セルロイド約手#5 期日23/3三井銀行にて割引 12/1@429	1	12,000	M44	3	24	期日継続	44	12,000	
	M44	2	8	" " 約手#7 29/3 " "	1	4,090	M44	3	31	期日振替	51	4,090	
	M44	2	8	J306 東洋汽船約手#64 期日16/2三井銀行にて割引 18/1@434	1	13,905	M44	2	27	期日振替	19	13,905	
	M44	2	15	C481 堺セルロイド約手#8 期日19/4 三井銀行割引	1	22,340	M44	4	19	期日振替	70	22,340	
	M44	2	15	" " #9 27/4 "	1	4,125	M44	4	29		73	4,125	
	M44	2	15	" " #12 8/5 "	1	4,617	M44	5	8	継続	82	4,736	
	M44	5	24	J95 " " #12割引分振替へ返却高の内営業部分	1	118							
	M44	3	6	C506 堺セルロイド約手#13 期日24/5 三井銀行割引	1	4,106	M44	5	24	継続	79	4,106	
	M44	4	10	C544 " " #18 14/6 "	1	3,667	M44	6	14	継続	65	4,631	
	M44	6	16	J183 " " #18内営業部機械部分	1	963							
	M44	4	10	" " #20 20/6 "	1	12,000	M44	6	20	継続	71	12,000	
	M44	4	10	" " #20 26/6 "	1	4,238	M44	6	26	継続	77	10,149	
	M44	4	10	" " #21 26/6 "	1	5,910							
	M44	3	6	" " #16 27/5 "	1	2,110	M44	5	27	継続	82	19,213	
	M44	5	31	J133 " " #16 期日27/5三井銀行払	1	17,103							
	M44	2	8	" " 大日本人造肥料約手#101 17/4住友銀行割引 26/1@450	22	95,800	M44	4	17	期日継続	68	95,800	
	M44	2	8	J307 東洋汽船約手#69 期日3/3住友銀行にて割引 4/2@462	22	10,064	M44	3	31	期日振替	51	10,064	
	M44	2	8	" " 大日本人造肥料約手#102 22/4森村銀行割引 27/1@451	29	100,000	M44	4	22	期日継続	66	100,000	
			計		317,156		計			317,159			
44/下	M44	5	10	C589 堺セルロイド約手#22 期日11/7三井銀行払	1	5,894	M44	7	11		62	8,707	
	M44	7	26	J346 " " #22 の内機械部分	1	2,812							
	M44	5	10	" " #24 " 17/7 "	1	22,340	M44	7	17		68	22,340	
	M44	5	10	" " #25 " 22/7 "	1	2,752	M44	7	22		73	3,066	
	M44	7	26	" " #25 "	1	313							
	M44	5	10	" " #28 " 25/7 "	1	4,881	M44	7	25		76	4,881	
	M44	7	7	C671 " " #35 " 12/9 三井銀行割引	1	7,343	M44	9	30	振替	85	7,343	
	M44	7	7	" " #36 " 11/9 "	1	4,631	M44	9	30	振替	85	4,631	
	M44	7	7	" " #37 " 17/9 "	1	12,000	M44	9	30	振替	85	12,000	
	M44	7	7	" " #39 " 23/9 "	1	4,238	M44	9	30	振替	85	4,238	
	M44	7	7	" " #40 " 23/9 "	1	5,910	M44	9	30	振替	85	5,910	
	M44	7	20	C685 " " #42 " 4/10 "	1	5,964	M44	10	31	振替	103	5,964	
	M44	6	26	C155 堺セルロイド約手 #28 期日 5/8正金銀行割引	3	4,736	M44	8	31	振替	66	4,736	
	M44	6	26	" " #29 " 14/8 "	3	5,782	M44	8	31	振替	66	5,782	
	M44	6	26	" " #30 " 21/8 "	3	4,106	M44	8	31	振替	66	4,106	
	M44	6	26	" " #33 " 24/8 "	3	19,213	M44	8	31	振替	66	19,213	
	M44	8	14	C714 " " #124 " 18/10 正金銀行割引	3	33,900	M44	10	18		65	33,900	
	M44	10	10	C786 消費船渠 " #65 " 3/12 "	3	4,403							
	M44	7	28	C697 " " #123 " 18/10 東海銀行割引	15	100,000	M44	10	18		82	100,000	
	M44	6	19	C649 大日本人造肥料 " #119 期日14/8森村銀行割引	29	150,000	M44	8	14		56	150,000	
	M44	6	19	" " #117 " 20/7 豊国銀行割引	30	100,000	M44	7	20		31	100,000	
M44	7	27	C695 " " #120 " 4/9 豊国銀行割引	30	150,000	M44	9	4	継続	39	150,000		
M44	7	27	" " #121 " 7/9 中井銀行割引	31	100,000	M44	9	7		42	100,000		
M44	7	27	" " #122 " 12/10 "	31	100,000	M44	10	12	継続	77	100,000		
			計		851,218		計			846,817			
45/下				大日本人造肥料約手#140			M45	5	8	継続		150,000	
				大日本人造肥料約手#141			M45	5	30	継続		150,000	
				大日本人造肥料約手#142			M45	6	3	継続		100,000	
	M45	8	12	C209 大日本人造肥料 " #152 " 10/10 三井銀行にて割引	1	33,900	M45	10	10		59	33,900	
	M45	8	12	" " #154 " 4/11 "	1	150,000	T1	11	4	書替	84	150,000	
	M45	8	9	C205 大日本人造肥料 約手#150 期日4/10 十五銀行にて入	5	100,000	M45	10	4		57	100,000	
	M45	8	9	" " #151 " 10/10 "	5	100,000	M45	10	10		62	100,000	
	M45	10	12	C301 " " 約手#159 期日 7/1 十五銀行にて入	5	33,900	T2	1	7	書替	87	33,900	
	M45	8	8	C203 大日本人造肥料 約手#153 " 21/10 住友銀行にて割引	22	200,000	M45	10	21	書替	74	200,000	
	M45	9	24	J406 王子製紙 約手 #164 期日28/11 台湾銀行にて割引	25		8	T1	11	30	振替	67	8
			計		617,808		計			1,017,808			
大2/上	T2	1	23	C453 大日本人造肥料 約手 #169 三井銀行 " 7/4	1	100,000	T2	4	7		75	100,000	
	T2	1	23	" " #170 " " "	1	33,900	T2	4	7		75	33,900	
	T2	1	27	C458 " " #168 " " 4/4	1	100,000	T2	4	4		67	100,000	
	T2	1	27	" " #171 " " 18/4	1	50,000	T2	4	18		81	50,000	
	T1	12	16	C402 大日本人造肥料 約手#160 第一銀行にて割引 期日18/1	2	50,000	T2	1	18		33	50,000	
	T1	12	25	C419 " " #166 東海銀行 " "	15	50,000	T2	2	24		61	50,000	

	T1	12	16	"	"	#165 住友銀行	"	24/2	22	50,000	T2	2	24		70	50,000		
	T1	12	20	C410	"	"	#164	"	"	22	50,000	T2	2	24		66	50,000	
	T1	12	16	"	"	#161 川崎銀行	"		23	50,000	T2	1	18		33	50,000		
	計									533,900	計							533,900
3/上	T2	12	27	C921	大日本人造肥料 約手#160	第一銀行にて割引入	期日18/1		2	50,000								
	T2	12	27	C921	大日本人造肥料 約手#210	東海銀行にて割引入		15	50,000	T2	12	23	書替		58	50,000		
	T3	1	24	C956	大日本人造肥料 約手#208	住友銀行にて割引入		22	100,000	T2	12	23	書替		30	100,000		
	T3	1	24	"	"	#209	"	22	100,000	T2	12	23	書替		30	100,000		
	大日本人造肥料 #198										T2	11	24	書替		50,000		
	計									300,000	計							300,000
3/下	T3	8	11	C245	三井銀行 手形割引高	大日本人造肥料 #227		1	100,000	T3	9	28	継続		48	100,000		
	T3	8	11	"	"	#228		1	100,000	T3	9	28	継続		48	100,000		
	T3	8	11	"	"	#229		1	100,000	T3	10	12	継続		62	100,000		
	T3	8	11	"	"	#230		1	100,000	T3	10	12	継続		62	100,000		
	T3	8	11	"	"	#231		1	150,000	T3	10	26	継続		76	150,000		
	T3	9	2	C300	第一銀行 北海道炭鉱			2	200,000	T3	10	27	買戻		55	200,000		
	T3	10	27	C290	大日本人造肥料手形#233	十五銀行にて割引代金		5	100,000	T3	11	24			28	100,000		
	T3	5	22	C44	第百銀行	"	#221	"	9	100,000	T3	7	13	継続		52	200,000	
	T3	5	30	"	第百銀行	"	#222	"	9	100,000								
	T3	10	21	C542	大日本人造肥料手形#238	割引代金第百銀行より入		9	100,000									
	T3	5	30	C56	東海銀行	"	#226	"	15	50,000	T3	8	24			86	50,000	
	T3	5	18	C38	住友銀行 大日本人造肥料手形#220	割引代		22	100,000	T3	6	29	買戻		37	100,000		
	T3	5	23	C46	住友銀行	"	#219	"	22	100,000	T3	6	29	買戻		42	100,000	
	T3	10	22	C543	川崎銀行より入	"	#237	"	23	100,000								
	T3	8	29	C290	大日本人造肥料手形#234	興業にて割引代金		27	50,000	T3	11	24	継続		87	50,000		
	T3	10	8	C511	大日本人造肥料手形#238	割引代金 興業銀行		27	200,000	T3	12	26	継続		79	100,000		
	興業銀行									T3	12	26	継続		79	100,000		
	T3	10	29	C566	"	#232 興業銀行		27	100,000	T3	11	24	継続		26	100,000		
	T3	8	15	C252	王子製紙約手 #247			99	10,000	T3	10	10			56	10,000		
	T3	8	15	"	"	#248		99	10,000	T3	10	10			56	10,000		
	T3	8	15	"	"	#250		99	1,822	T3	10	10			56	1,822		
	T3	8	15	"	北海道炭鉱 #16			99	7,537	T3	10	10			56	7,537		
	計									1,879,359	計							1,879,359
4/上	T3	12	16	C730	手形二枚割引代り金	三井銀行より入		1	200,000									
	T3	12	30	C394	大日本人造肥料手形#243	割引代り金	三井銀行より入	1	150,000	T4	2	22	継続		54	150,000		
	T4	1	28	C368	大日本人造肥料手形割引代り金	三井銀行より入		1	100,000	T4	2	23	継続		26	100,000		
	T4	1	29	C371	手形二枚割引代り金	三井銀行より入		1	200,000									
	T4	2	22	C433	大日本人造肥料手形#2	割引代	三井銀行より入	1	100,000	T4	3	1	継続		31	100,000		
	T4	3	1	C454	大日本人造肥料手形#4	割引代金	三井銀行入	1	150,000									
	T3	11	20	C634	王子製紙	"	#403	"	2	30,000								
	T4	1	28	C366	手形二枚割引代り金入	十五銀行		5	150,000									
	T4	1	27	C362	大日本人造肥料手形#1	割引代り金	第百銀行より入	9	100,000	T4	2	23	継続		27	100,000		
	T3	11	13	J612	手形割引二枚代り金	第百銀行		9	70,000									
	T3	11	6	C591	大日本人造肥料手形#239	割引代金住友銀行入		22	150,000	T3	12	24	継続		48	150,000		
	T3	11	28	C664	大日本人造肥料手形#242	割引代り金	住友銀行より入	22	50,000	T4	1	23	継続		56	100,000		
	T3	11	16	C6214	王子製紙手形#402	割引代り金	川崎銀行より入	23	30,000									
	T3	11	12	J608	手形割引2枚代り金	興業銀行		27	80,000									
	T3	11	17	C623	王子製紙手形#405	割引代り金		99	20,000									
	T3	11	11	C604	王子製紙手形2枚	割引代り金		99	70,000									
	T4	3	4	C465	大日本人造肥料手形#6	割引代り金		99	100,000									
	大日本人造肥料約手#240									T3	1	23	継続			100,000		
	" " #127									T3	12	31				100,000		
	" " #128									T3	12	31				100,000		
	" " #241									T4	1	23	継続			100,000		
	王子製紙約手 #339/407									T4	2	19				300,000		
	" " #247									T4	3	1	継続			100,000		
	計									1,750,000	計							1,500,000

〔備考〕付表1と同様。

付表3 三井銀行通知預金の動き(大11/上)

(金額単位:円)

入出金日	入金額	出金額	日数	残高	積数
10 11 8	2,250,000		3	2,250,000	6,750,000
10 11 11	1,250,000		5	3,500,000	17,500,000
10 11 16	1,000,000		2	4,500,000	9,000,000
10 11 18	500,000		4	5,000,000	20,000,000
10 11 22		1,500,000	4	3,500,000	14,000,000
10 11 26		800,000	5	2,700,000	13,500,000
10 12 1	649,112		1	3,349,112	3,349,112
10 12 2	263,507		1	3,612,619	3,612,619
10 12 3	1,387,380		2	5,000,000	10,000,000
10 12 5	1,000,000		4	6,000,000	24,000,000
10 12 9	700,000		4	6,700,000	26,800,000
10 12 13		1,500,000	7	5,200,000	36,400,000
10 12 20		500,000	1	4,700,000	4,700,000
10 12 21	22,426		1	4,722,426	4,722,426
10 12 22		500,000	1	4,222,426	4,222,426
10 12 23		722,426	1	3,500,000	3,500,000
10 12 24		500,000	2	3,000,000	6,000,000
10 12 26		1,300,000	1	1,700,000	1,700,000
10 12 27	500,000		1	2,200,000	2,200,000
10 12 28	1,000,000		1	3,200,000	3,200,000
10 12 29	300,000		1	3,500,000	3,500,000
10 12 30	1,500,000		5	5,000,000	25,000,000
11 1 4	2,000,000		3	7,000,000	21,000,000
11 1 7		2,500,000	4	4,500,000	18,000,000
11 1 11		500,000	6	4,000,000	24,000,000
11 1 17	300,000		3	4,300,000	12,900,000
11 1 20		1,000,000	1	3,300,000	3,300,000
11 1 21		1,500,000	2	1,800,000	3,600,000
11 1 23	500,000		2	2,300,000	4,600,000
11 1 25		300,000	2	2,000,000	4,000,000
11 1 27		500,000	1	1,500,000	1,500,000
11 1 28		300,000	2	1,200,000	2,400,000
11 1 30	1,000,000	500,000	3	1,700,000	5,100,000
11 2 2	1,400,000		1	3,100,000	3,100,000
11 2 3	500,000		1	3,600,000	3,600,000
11 2 4	400,000		2	4,000,000	8,000,000
11 2 6	400,000		1	4,400,000	4,400,000
11 2 7	600,000		18	5,000,000	90,000,000
11 2 25		500,000	2	4,500,000	9,000,000
11 2 27		610,000	1	3,890,000	3,890,000
11 2 28		390,000	1	3,500,000	3,500,000
11 3 1	1,000,000		5	4,500,000	22,500,000
11 3 6	1,773,000		1	6,273,000	6,273,000
11 3 7	427,000		4	6,700,000	26,800,000
11 3 11		700,000	2	6,000,000	12,000,000
11 3 13		500,000	2	5,500,000	11,000,000
11 3 15	400,000		1	5,900,000	5,900,000
11 3 16		1,300,000	1	4,600,000	4,600,000
11 3 17	400,000		3	5,000,000	15,000,000
11 3 20	1,000,000		2	6,000,000	12,000,000
11 3 22	500,000		3	6,500,000	19,500,000
11 3 25		300,000	2	6,200,000	12,400,000
11 3 27		1,580,000	1	4,620,000	4,620,000
11 3 28	700,000	500,000	3	4,820,000	14,460,000
11 3 31		1,820,000	1	3,000,000	3,000,000
11 4 1	1,000,000		5	4,000,000	20,000,000
11 4 6	800,000		4	4,800,000	19,200,000
11 4 10		1,300,000	3	3,500,000	10,500,000
11 4 13	1,400,000		5	4,900,000	24,500,000
11 4 18		400,000	1	4,500,000	4,500,000
11 4 19	1,400,000		1	5,900,000	5,900,000
11 4 20	800,000		2	6,700,000	13,400,000
11 4 22	700,000		2	7,400,000	14,800,000
11 4 24		220,000	1	7,180,000	7,180,000
11 4 25		5,000,000	3	2,180,000	6,540,000
11 4 28		480,000	2	1,700,000	3,400,000
	31,722,425	30,022,426			769,519,583
			173		4,448,090
			180		4,275,109

付表 4 三井銀行通知預金の動き (大11/下)

(金額単位:円)

入出金日	入金額	出金額	日数	残高	積数
11 5 1	3,960,000		1	5,660,000	5,660,000
11 5 2	340,000		2	6,000,000	12,000,000
11 5 4	500,000		2	6,500,000	13,000,000
11 5 6	1,150,000		3	7,650,000	22,950,000
11 5 9	350,000		3	8,000,000	24,000,000
11 5 12	1,500,000		4	9,500,000	38,000,000
11 5 16	500,000		2	10,000,000	20,000,000
11 5 18		1,500,000	1	8,500,000	8,500,000
11 5 19		4,734,400	1	3,765,600	3,765,600
11 5 20	34,400	800,000	3	3,000,000	9,000,000
11 5 23	1,078,652		1	4,078,652	4,078,652
11 5 24	121,347	1,000,000	1	3,200,000	3,200,000
11 5 25	500,000		2	3,700,000	7,400,000
11 5 27		1,200,000	2	2,500,000	5,000,000
11 5 29		550,000	1	1,950,000	1,950,000
11 5 30	565,612		1	2,515,612	2,515,612
11 5 31	34,387		1	2,550,000	2,550,000
11 6 1		450,000	4	2,100,000	8,400,000
11 6 5	1,600,000		2	3,700,000	7,400,000
11 6 7	1,300,000		6	5,000,000	30,000,000
11 6 13		800,000	1	4,200,000	4,200,000
11 6 14	800,000		2	5,000,000	10,000,000
11 6 16	400,000		1	5,400,000	5,400,000
11 6 17	1,100,000		4	6,500,000	26,000,000
11 6 21	98,234		1	6,598,234	6,598,234
11 6 22	101,765		4	6,700,000	26,800,000
11 6 26		1,000,000	4	5,700,000	22,800,000
11 6 30	800,000		1	6,500,000	6,500,000
11 7 1	1,000,000		5	7,500,000	37,500,000
11 7 6		500,000	1	7,000,000	7,000,000
11 7 7	550,000		3	7,550,000	22,650,000
11 7 10		950,000	1	6,600,000	6,600,000
11 7 11	1,400,000		3	8,000,000	24,000,000
11 7 14	1,000,000		1	9,000,000	9,000,000
11 7 15	1,000,000		2	10,000,000	20,000,000
11 7 17	1,000,000		5	11,000,000	55,000,000
11 7 22		3,500,000	2	7,500,000	15,000,000
11 7 24		1,000,000	3	6,500,000	19,500,000
11 7 27		300,000	1	6,200,000	6,200,000
11 7 28		2,200,000	3	4,000,000	12,000,000
11 7 31		1,000,000	1	3,000,000	3,000,000
11 7 1		1,700,000	1	1,300,000	1,300,000
11 8 2	1,700,000		2	3,000,000	6,000,000
11 8 4	600,000		1	3,600,000	3,600,000
11 8 5	500,000		5	4,100,000	20,500,000
11 8 10		1,300,000	1	2,800,000	2,800,000
11 8 11	700,000		4	3,500,000	14,000,000
11 8 15	1,000,000		1	4,500,000	4,500,000
11 8 16	500,000		1	5,000,000	5,000,000
11 8 17	1,000,000		2	6,000,000	12,000,000
11 8 19	500,000		2	6,500,000	13,000,000
11 8 21	420,000		1	6,920,000	6,920,000
11 8 22	800,000		1	7,720,000	7,720,000
11 8 23	80,000		5	7,800,000	39,000,000
11 8 28	200,000		4	8,000,000	32,000,000
11 9 1	500,000		3	8,500,000	25,500,000
11 9 4	500,000		2	9,000,000	18,000,000
11 9 6	500,000		1	9,500,000	9,500,000
11 9 7	190,000		4	9,690,000	38,760,000
11 9 11		190,000	1	9,500,000	9,500,000
11 9 12	500,000		3	10,000,000	30,000,000
11 9 15		8,500,000	4	1,500,000	6,000,000
11 9 19	500,000		4	2,000,000	8,000,000
11 9 23		1,000,000	3	1,000,000	3,000,000
11 9 26		266,288	2	733,712	1,467,424
11 9 28		733,712	1	0	0
11 9 29	200,000		1	200,000	200,000
11 9 30	300,000		2	500,000	1,000,000
11 10 2	1,100,000		2	1,600,000	3,200,000
11 10 4		800,000	2	800,000	1,600,000
11 10 6	200,000		1	1,000,000	1,000,000
11 10 7	100,000		6	1,100,000	6,600,000
11 10 13	400,000		6	1,500,000	9,000,000
11 10 19	500,000		6	2,000,000	12,000,000
11 10 25	5,142,500	1,142,500	3	6,000,000	18,000,000
11 10 28		2,800,000	2	3,200,000	6,400,000
11 10 30		1,200,000	1	2,000,000	2,000,000
	41,416,897	41,116,900			954,185,522
			183		5,214,129

〈編集後記〉

本号では麻島先生の労作第三弾をお届けいたします。三井物産の資金調達に関する歴史的資料研究です。三井文庫所蔵の元帳の閲覧機会を得るところからはじまり、しかしながらその元帳にも少なからぬ欠落分があったり、あるいは、それら書類には、外部からの観察をあたかも拒否しているかのように財務内容に関して秘匿されているように思われる箇所があったり…と、大変に困難な中、進められた歴史的資料の分析です。社会学を専攻し生活史・個人史(自分史)などの調査手法に慣れ親しんでいる私などには、本稿の対象時期、すなわち第一次世界大戦前後の波乱に富んだ時期における物産の銀行取引に思いをはせる時、即座に、社の豪傑の武勇伝、例えば、同系の三井銀行以外、それも台湾、朝鮮の諸銀行からの資金調達を成し遂げたその現場に、素人の妄想は劇画調に膨らんでいってしまいますが…。本稿ではただただ緻密にお金の出入りが整理・提示されていきます。いつか誰かによって整備された基盤のおかげで、後世の研究はスタートします。続編を心待ちにしております。

(J)

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 内田 弘

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
